

公立大学法人岡山県立大学
令和4年度に係る業務の実績に関する評価結果
最小項目別評価

令和5年7月

岡山県地方独立行政法人評価委員会

目

次

1 法人の概要			
(1) 名称	P- 1		
(2) 所在地	P- 1		
(3) 法人設立の年月日	P- 1		
(4) 設立団体	P- 1		
(5) 中期目標の期間	P- 1		
(6) 目的及び業務	P- 1		
(7) 資本金の額	P- 1		
(8) 代表者の役職氏名	P- 1		
(9) 役員及び教職員の数	P- 1		
(10) 組織図	P- 2		
(11) 法人が設置運営する大学の概要	P- 3		
(12) 理事長メッセージ	P- 4		
2 令和4年度に係る業務の実績に関する自己評価結果			
(1) 大項目ごとの評定	P- 5		
(2) 総合的な評定	P- 5		
(3) 対処すべき課題	P- 5		
3 中期計画の各項目ごとの実施状況			
第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置			
1 教育に関する目標を達成するためとるべき措置			
(1) 教育内容の充実に関する目標を達成するためとるべき措置	P- 6		
(2) 教育方法等の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	P-14		
2 学生の確保に関する目標を達成するためとるべき措置	P-16		
3 学生の支援に関する目標を達成するためとるべき措置			
(1) 学習支援の充実に関する目標を達成するためとるべき措置	P-18		
(2) 生活支援の充実に関する目標を達成するためとるべき措置	P-21		
(3) 就職支援の充実に関する目標を達成するためとるべき措置	P-23		
4 研究に関する目標を達成するためとるべき措置			
(1) 研究の充実に関する目標を達成するためとるべき措置	P-26		
(2) 多様な研究活動の展開に関する目標を達成するためとるべき措置	P-28		
(3) 研究成果の還元に関する目標を達成するためとるべき措置	P-30		
5 地域貢献に関する目標を達成するためとるべき措置			
(1) 地域連携教育の充実に関する目標を達成するためとるべき措置	P-31		
(2) 地域貢献活動の充実に関する目標を達成するためとるべき措置	P-33		
6 グローバル化に関する目標を達成するためとるべき措置	P-34		
第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置			
1 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置			
(1) 機動的かつ効率的な運営体制の構築に関する目標を達成するためとるべき措置		P-36	
(2) 地域に開かれた大学づくりの推進に関する目標を達成するためとるべき措置		P-38	
2 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置			
(1) 自己収入の増加に関する目標を達成するためとるべき措置		P-39	
(2) 運営経費の見直しに関する目標を達成するためとるべき措置		P-41	
3 自己点検及び評価に関する目標を達成するためとるべき措置			
(1) 評価の充実に関する目標を達成するためとるべき措置		P-42	
(2) 情報公開の推進に関する目標を達成するためとるべき措置		P-43	
4 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置			
(1) 施設及び設備の適切な維持管理に関する目標を達成するためとるべき措置		P-44	
(2) 安全・安心な教育研究環境の確保に関する目標を達成するためとるべき措置		P-45	
第4 予算、収支計画及び資金計画			P-46
第5 短期借入金の限度額			P-48
第6 剰余金の使途			P-48
第7 重要な財産の譲渡等に関する計画			P-48
第8 その他規則で定める事項			P-49
4 令和4年度の事業年度評価に係る項目別評価結果表			P-50

1 法人の概要

(令和4年5月1日現在)

- (1) 名称
公立大学法人岡山県立大学
- (2) 所在地
岡山県総社市窪木111番地
- (3) 法人設立の年月日
平成19年4月1日
- (4) 設立団体
岡山県
- (5) 中期目標の期間
平成31年4月1日から令和7年3月31日
- (6) 目的及び業務
- ア 目的
公立大学法人岡山県立大学は、人間を取り囲むさまざまな環境の中で調和のとれた発展を期し、地域の課題や社会の要請に的確に応えるため、「人間・社会・自然の関係性を重視する実学を創造し、地域に貢献する」ことを基本理念とする。
この理念に基づいて、学術の進展と教育の振興を図り、福祉の増進、文化の向上、地域産業の発展等に寄与する研究活動に取り組むとともに、知性と感性を育み、豊かな教養と深い専門性を備えて新しい時代を切り拓く知識と高度な技術を身につけた実践力のある人材を育成する。
- イ 業務
- (ア) 岡山県立大学を設置し、これを運営すること。
- (イ) すべての学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談など学生生活に関する相談その他の援助を行うこと。
- (ウ) 民間企業や試験研究機関等との間の共同研究や受託研究、技術指導等を実施するなど、法人以外の者と連携して教育研究活動の推進に取り組むこと。
- (エ) 地域社会に貢献するため、公開講座を開設する等、地域住民に幅広く学習機会を提供するとともに、大学における研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。
- (オ) 前各号に掲げる業務を効果的かつ効率的に実施するため、附帯して必要となる関連業務を行うこと。
- (7) 資本金の額 120億 9,163万 2,943円
- (8) 代表者の役職氏名
理事長 沖 陽子
- (9) 役員及び教職員の数
- ア 役員
- | | |
|------|----|
| 理事長 | 1人 |
| 副理事長 | 1人 |
| 理事 | 3人 |
| 監事 | 2人 |
| 役員計 | 7人 |
- イ 教職員
- | | |
|------|----------------------|
| 学長 | 1人 |
| 教員 | 150人 (特任教員を含む専任教員数。) |
| 職員 | 60人 |
| 教職員計 | 211人 |

(10) 組織図

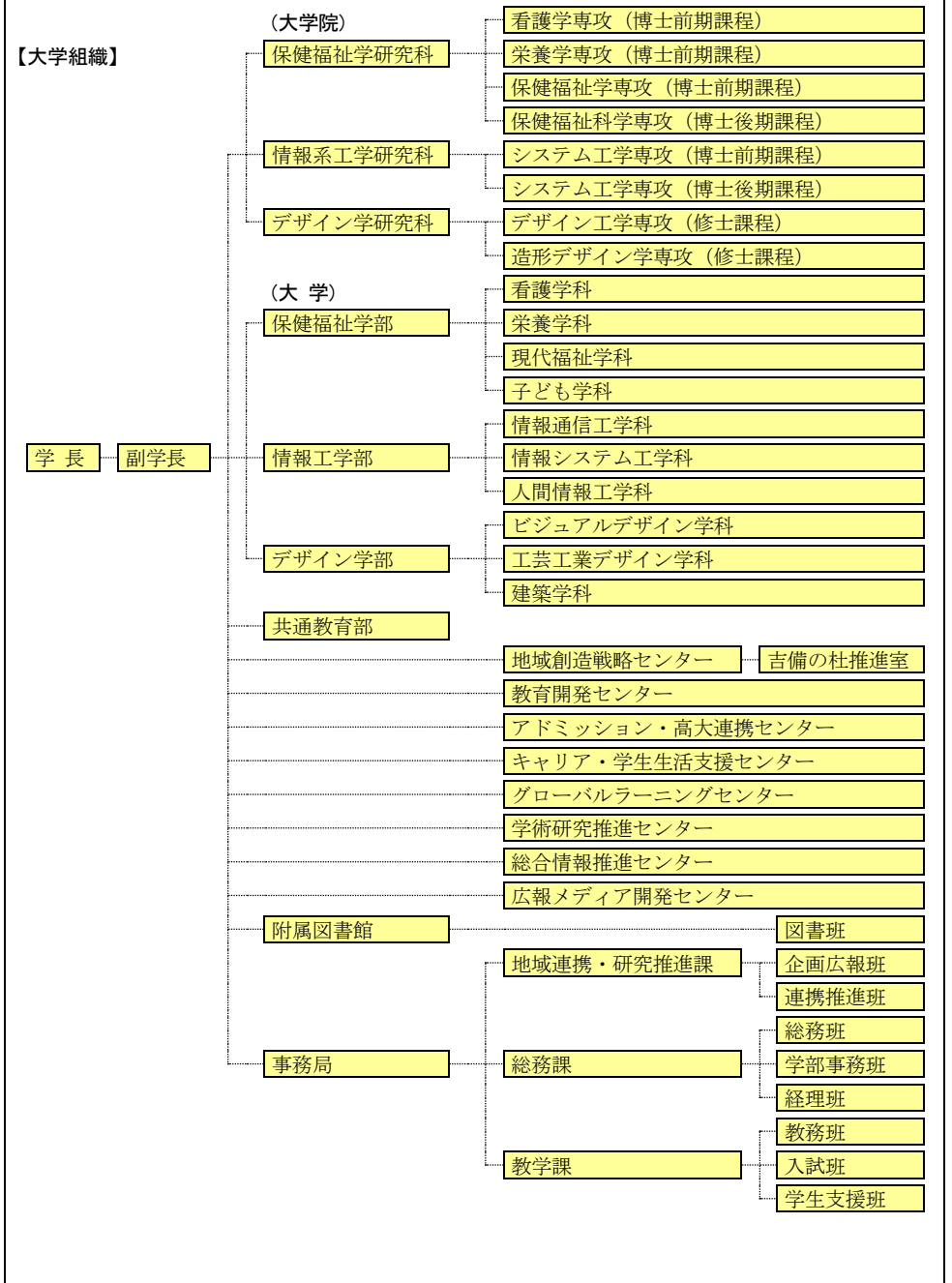
【法人組織】

役員		
理事長	沖 陽子	岡山県立大学学長
副理事長	善勝 剛志	岡山県立大学事務局長
理事	松田 正己	(株)山陽新聞社代表取締役社長
理事	高橋 吉孝	岡山県立大学副学長 (教育・学術研究担当)
理事	末岡 浩治	岡山県立大学副学長 (社会連携・国際担当)
監事	井上 信二	公認会計士
監事	大土 弘	弁護士

経営審議会		
議長	沖 陽子	公立大学法人岡山県立大学理事長
委員	善勝 剛志	公立大学法人岡山県立大学副理事長
委員	末岡 浩治	公立大学法人岡山県立大学理事 (社会連携・国際担当)
委員	晝田 眞三	ヒルタ工業 (株) 代表取締役会長
委員	中島 義雄	(株) システムズナカシマ代表取締役社長
委員	梶谷 俊介	岡山トヨタ自動車(株)代表取締役社長
委員	則武 直美	岡山聖園子供の家施設長

教育研究審議会		
議長	沖 陽子	公立大学法人岡山県立大学理事長
委員	善勝 剛志	公立大学法人岡山県立大学副理事長
委員	高橋 吉孝	公立大学法人岡山県立大学理事 (教育・学術研究担当)
委員	末岡 浩治	公立大学法人岡山県立大学理事 (社会連携・国際担当)
委員	伊東 秀之	岡山県立大学副学長 (入試・広報担当)
委員	近藤 理恵	岡山県立大学保健福祉学部長
委員	尾崎 公一	岡山県立大学情報工学部長
委員	嘉数 彰彦	岡山県立大学デザイン学部長
委員	田中 晃一	岡山県立大学共通教育部長
委員	山下 広美	岡山県立大学附属図書館長
委員	難波 久美子	岡山県立大学デザイン学部教授
委員	大崎 紘一	岡山商科大学特別顧問
委員	松浦 洋司	岡山理科大学副学長

【大学組織】



(11) 法人が設置運営する大学の概要

大学の名称	岡山県立大学				
大学本部の位置	岡山県総社市窪木1 1 1 番地				
学長の氏名	沖 陽子 (公立大学法人岡山県立大学理事長)				
学部等の名称	修業 年限	入学 定員	収容 定員	開設年度	備 考
保健福祉学部	年	人	人		
看護学科	4	40	160	平成5年4月	
栄養学科	4	40	160	平成5年4月	
現代福祉学科	4	35	140	令和3年4月	学科再編
子ども学科	4	25	100	令和3年4月	〃
情報工学部					
情報通信工学科	4	50	200	平成5年4月	
情報システム工学科	4	50	200	平成5年4月	
人間情報工学科	4	40	160	平成27年4月	名称変更
デザイン学部					
ビジュアルデザイン学科	4	30	120	令和3年4月	学科再編
工芸工業デザイン学科	4	30	120	令和3年4月	〃
建築学科	4	30	120	令和3年4月	〃
保健福祉学研究所 (博士前期課程)					
看護学専攻	2	7	14	平成9年4月	
栄養学専攻	2	6	12	平成9年4月	
保健福祉学専攻 (博士後期課程)	2	7	14	平成9年4月	
保健福祉科学専攻	3	5	15	平成15年4月	定員変更
情報系工学研究所 (博士前期課程)					
システム工学専攻 (博士後期課程)	2	52	104	平成25年4月	専攻再編
システム工学専攻	3	6	18	平成11年4月	
デザイン学研究所 (修士課程)					
デザイン工学専攻	2	7	14	平成22年4月	専攻再編
造形デザイン学専攻	2	9	18	平成22年4月	〃
附属施設等	附属図書館 共通教育部				
学生数	1, 788人				
教員数	150人 (特任教員を含む専任教員数。)				
職員数	60人				

【大学の沿革】

平成 5年 4月	開学 (保健福祉学部・情報工学部・デザイン学部、短期大学部)
9年 4月	大学院 保健福祉学研究所 (修士課程)、情報系工学研究所 (修士課程) 設置
10年 4月	大学院 デザイン学研究所 (修士課程) 設置
11年 4月	大学院情報系工学研究所 (博士後期課程) 開設
12年 6月	共同研究機構設置
14年 4月	保健福祉支援センター設置 メディアコミュニケーション支援センター設置
15年 4月	大学院保健福祉学研究所 (博士後期課程) 設置
15年 6月	サテライトキャンパス設置 (平成18年7月廃止)
17年 8月	全学教育研究機構設置
17年10月	地域共同研究機構設置 (令和2年3月廃止) 共同研究機構を産学官連携推進センターに名称変更 (令和2年3月廃止) 保健福祉支援センターを保健福祉推進センターに名称変更 (平成29年3月廃止) メディアコミュニケーション支援センターをメディアコミュニケーション推進センターに名称変更 (平成24年3月廃止)
18年 4月	情報工学部 スポーツシステム工学科設置 デザイン学部 学科再編 (デザイン工学科・造形デザイン学科設置)
19年 3月	短期大学部閉学
19年 4月	公立大学法人岡山県立大学設立 保健福祉学部 保健福祉学科改組
20年 4月	健康・スポーツ推進センター設置 (平成27年3月廃止)
22年 4月	大学院 情報系工学研究所人間情報システム工学専攻 (博士前期課程) 設置 大学院 デザイン学研究所 (修士課程) 再編 (デザイン工学専攻、造形デザイン学専攻設置)
23年 4月	認定看護師教育センター設置 (平成28年3月廃止)
24年 4月	福祉・健康まちづくり推進センター設置 (平成27年3月廃止)
25年 4月	保健福祉学部 保健福祉学科再編 (社会福祉学専攻、子ども学専攻設置) 大学院 保健福祉学研究所 (博士前期課程) 看護学専攻再編 (保健師国家試験受験資格取得) 大学院 情報系工学研究所 (博士前期課程) 再編 (システム工学専攻設置)
26年10月	大学教育開発センター設置 国際交流センター設置

27年 4月	情報工学部 スポーツシステム工学科を人間情報工学科に名称変更 全学教育研究機構を共通教育部に名称変更 教育研究開発機構設置（平成31年3月廃止） 総合情報機構設置（平成31年3月廃止） 情報基盤活用推進センター設置 広報メディア開発センター設置 地域連携推進センター設置（令和2年3月廃止）
27年10月	学術研究推進センター設置
28年 4月	副専攻「岡山創生学」設置 COC+推進室設置
28年12月	学生支援室（SAS）開設
31年 4月	キャリア・学生生活支援センター設置 大学教育開発センターを教育開発センターに名称変更 情報基盤活用推進センターを総合情報推進センターに名称変更
令和 2年 4月	地域創造戦略センター設置 アドミッション・高大連携センター設置 国際交流センターをグローバルラーニングセンターに名称変更
令和 3年 4月	保健福祉学部 学科再編（現代福祉学科・子ども学科設置） デザイン学部 学科再編（ビジュアルデザイン学科・工芸工業デザイン学科・建築学科設置） 副専攻「岡山創生学」を「岡山創生学課程」に名称変更 副専攻「吉備の杜クリエイター課程」設置 副専攻「吉備の杜プロデューサー課程」設置 地域創造戦略センター吉備の杜推進室設置

(12) 理事長メッセージ

岡山県立大学は、人間・社会・自然の関係性を重視する実学を教授研究するとともに、知性と感性を育み、豊かな教養と深い専門性を備えて新しい時代を切り拓く人材の育成を図り、もって学術文化の進展及び地域産業の振興に寄与することを目的として教育、研究、社会貢献、大学運営等の業務を遂行している。

令和4年度業務実績に関する自己評価は第3期中期計画が実施されて4年目にあたる業務実績を振り返ったもので、コロナ禍の影響が大きかった令和2年度、令和3年度と共に、引き続きコロナ禍で業務は制約されることが多かった。令和3年度はコロナ禍にもかかわらず改善効果が認められたが、令和4年度は総じて令和3年度よりやや低い評価結果となった。これは、県内就職率や科研費の獲得金等の経年変化で成果指標の目標値に達せず評価が低くなった項目と、今まで改善項目として指摘されていた大学院教育の充実、共同研究等の推進並びにICT環境の整備等が引き続き改善できなかったことに因る。さらに、成果指標に依存しない質的な評価項目についても評価4である「年度計画を十分に達成」の評価について、前年度と同様の活動を維持しただけでは評価3の「年度計画を概ね達成」に位置づけたことも一因である。

しかしながら、保健福祉学部・同研究科の教育の充実、アクティブ・ラーニングの実施やラーニングコモンズの活用、障がいを持つ学生への支援、英語教育、教員の個人評価制度の運用は高い評価となった。また、評価3であっても次年度に高い評価が得られる準備期間である項目も多々見受けられた。

なお、地域連携教育のコアとなる副専攻「吉備の杜」は教育内容の充実や学内外への周知は進んでおり、リカレント教育としての貢献度も高くプログラムは順調に進んでいる。

2 令和4年度に係る業務の実績に関する自己評価結果

(1) 大項目ごとの評定

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する事項

評定	中期計画の進捗は順調
----	------------

大項目第2「大学の教育研究等の質の向上」では、評点4「十分に達成」が6項目(18%)、評点3「概ね達成」が22項目(67%)、評点2「やや未達成」が5項目(15%)であり、当該大項目に係る最小項目別評価の評点の平均値は3.0となるため、大項目別評価は④「中期計画の進捗は順調」とした。

第3 業務運営の改善及び効率化等に関する事項

評定	中期計画の進捗は順調
----	------------

大項目第3「業務運営の改善及び効率化等」では、評点4「十分に達成」が1項目(5%)、評点3「概ね達成」が15項目(79%)、評点2「やや未達成」が3項目(16%)であり、当該大項目に係る最小項目別評価の評点の平均値は2.89となるため、大項目別評価は④「中期計画の進捗は順調」とした。

(2) 総合的な評定

評定	中期計画の進捗は順調
----	------------

大項目別評価の結果を踏まえ、中期計画の進捗状況全体について総合的に判断し、令和4年度の業務に対する自己評価は「中期計画の進捗は順調」とした。

令和4年度は、コロナ禍の収束をはじめとした社会情勢の変動に対応しつつ、令和5年度の大学機関別認証評価や開学30周年、次期中期計画の策定を見据えて中期計画を遂行した。特に内部質保証推進体制やSA制度の整備等の組織・制度面の改善、コロナ禍で定着したオンラインの活用による事業の効率化を推進することができた。

(3) 実績をふまえた運営上の方針・戦略等

令和4年度に係る業務の実績に関する報告書を提出するに当たり、第3期中期目標・中期計画も残された期間は2年間となった。残る2年間で中期目標を達成するためには、現時点で評価2である項目の課題分析と改善見込み、評価3である項目の評価4へのレベルアップの可能性を全学で情報共有し、協議しなければならない。幸いにも、令和5年度は大学教育質保証・評価センターにて大学機関別認証評価を受審するために、令和4年度に点検評価ポートフォリオを作成して、教育研究に関する項目について現況分析を実施した。さらに、内部質保証推進体制を構築し全学と各部局との連携を強化するとともに、PDCAサイクルを活用して教職員のモチベーションを高めるシステムを築いた。その内部質保証推進体制には学部・研究科外部評価委員会が関与しており、色々な立場のステークホルダーの方々が評価委員となり、社会のニーズと本学の教育研究との関わりについて助言をいただいている。

一般に公立大学は、実学を重視する傾向にあり、研究力より教育力が高く評価されてきた経緯がある。しかしながら、研究と教育は表裏一体で、特色ある研究力が大学のブランド力となり、それを求めて優秀な学生が集まってくる。この好循環を得るために、現在、評価の低い共同研究等や科研費獲得を踏まえた研究力の向上や定員未充足の研究科への進学率の向上を推進することによる大学院教育の質保証が重要な改善目標となる。

その側面補強の視点から、教員の個人評価制度の見直しを実施し、より実情に沿った評価手法へと改善し、各教員の資質の発掘と気づきによるモチベーションの高まりを期待する個人評価を令和4年度に実施した。いまだ試行錯誤の段階ではあるが、今後の教育研究及び大学運営に大きく影響する人材データベースが得られると思われる。

コロナ禍が収束されつつある令和5年度に向けて、今回の業務実績報告書から得られた評価を謙虚に受け止め、評価が高かった項目は更なる発展を求めて、また評価が低かった項目は的確な改善策を早急に実施することにより、次年度の実績に繋がりたいと考える。

3 中期計画の各項目ごとの実施状況

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 教育に関する目標達成するためとるべき措置

(1) 教育内容の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

ア 学士教育

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見																																			
<p>[1]</p> <p>・保健福祉学部 保健福祉学部では、地域社会や国際社会における人々の健康維持と増進に積極的に貢献できる看護、栄養、福祉、教育に関する幅広い知識と技術を修得し、専門分野に関する課題を科学的、論理的思考や分析に基づいて主体的に解決する能力を備えた人材を育成する教育を充実させる。 特に、子ども学の分野では、子どもを取り巻く複雑化する環境を理解し、福祉の視点を有する高度な就学前教育と小学校教育への円滑な接続を推進できる人材育成を目指す。</p> <p>成果指標</p> <p>・国家試験の合格率(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>試験名</th> <th>現状(H25～29年度平均)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>98.1</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>助産師</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>管理栄養士</td> <td>95.5</td> <td>96.0</td> </tr> <tr> <td>社会福祉士</td> <td>79.6</td> <td>80.0</td> </tr> </tbody> </table>	試験名	現状(H25～29年度平均)	目標	看護師	98.1	100	助産師	100	100	管理栄養士	95.5	96.0	社会福祉士	79.6	80.0	<p>[1]</p> <p>・保健福祉学部 令和4年度から開始する新カリキュラムの実施状況を分析し、改善点について検討するとともに、地域及び海外と連携した専門教育の充実を図る。 国家試験の合格率目標の実現に向けた指導を行う。</p> <p>成果指標</p> <p>・国家試験の合格率(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>試験名</th> <th>R4目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>助産師</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>管理栄養士</td> <td>96.0</td> </tr> <tr> <td>社会福祉士</td> <td>80.0</td> </tr> </tbody> </table>	試験名	R4目標	看護師	100	助産師	100	管理栄養士	96.0	社会福祉士	80.0	<p>[1]</p> <p>・保健福祉学部 看護学科、現代福祉学科、子ども学科の新カリキュラムの進捗状況について点検し、順調に進んでいることを確認した。 副専攻「吉備の杜」や菜園を利用したエデュイブル教育等の地域と連携した専門教育を積極的に実施した。 韓国又松大学、米国ウィスコンシン大学マディソン校の教員及びカタール在住の客員教授とオンラインで学術交流会を実施するなどグローバル教育の推進に努めた。 社会福祉士に関する対策講座を実施したほか、各学科においてカリキュラムを通して国家試験の合格率向上に向けた対策を進めた。</p> <p>成果指標</p> <p>・国家試験の合格率(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>試験名</th> <th>R4実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>助産師</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>管理栄養士</td> <td>90.2</td> </tr> <tr> <td>社会福祉士</td> <td>86.7</td> </tr> </tbody> </table>	試験名	R4実績	看護師	100	助産師	100	管理栄養士	90.2	社会福祉士	86.7	4	4	高い国家試験合格率达到するとともに、地域及び海外と連携した専門教育の充実を進めており、評価できる。
試験名	現状(H25～29年度平均)	目標																																						
看護師	98.1	100																																						
助産師	100	100																																						
管理栄養士	95.5	96.0																																						
社会福祉士	79.6	80.0																																						
試験名	R4目標																																							
看護師	100																																							
助産師	100																																							
管理栄養士	96.0																																							
社会福祉士	80.0																																							
試験名	R4実績																																							
看護師	100																																							
助産師	100																																							
管理栄養士	90.2																																							
社会福祉士	86.7																																							

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
		<p>[評価時の観点]</p> <p>成果指標の国家試験の合格率について、看護師、助産師、社会福祉士の3つが目標値に到達した。新カリキュラムの進捗も順調であり、地域及び海外との連携も積極的に行うなど、専門教育の充実を進めることができた。</p>			
<p>[2]</p> <p>・情報工学部</p> <p>情報工学部では、第4次産業革命の中核をなす情報工学に加え、電子通信工学、機械システム工学、人間工学に関する幅広い知識を活用し、人間・社会・自然との調和を図りながら超スマート社会及び地域産業の持続的発展に貢献できる未来志向の技術者を育成する教育を充実させる。</p>	<p>[2]</p> <p>・情報工学部</p> <p>成長分野を支える情報技術人材の育成のため、数理・データサイエンス・AIカリキュラムを充実させるとともに、「吉備の杜」創造戦略プロジェクトの授業科目の活用を推進する。また、全国の大学、岡山県立大学協力会、システムエンジニアリング岡山等との連携を密にし、社会人基礎力の育成に努める。</p>	<p>[2]</p> <p>・情報工学部</p> <p>数理・データサイエンス・AI（応用基礎レベル）モデルカリキュラムに準じた授業内容に整備し、本学での履修モデルを示した。「吉備の杜」創造戦略プロジェクト授業科目の履修の促進、岡山県立大学協力会をはじめとした地元企業による業種説明会の開催等、地域・企業と連携した社会人基礎力の育成、進路決定の支援に取り組んだ。愛媛大学のオンラインPBL科目の履修や、マレーシアマラッカ技術大学での海外インターンシップの実施等、国内外の大学との連携により専門教育を充実させた。</p>	3	3	
<p>[3]</p> <p>・デザイン学部</p> <p>デザイン学部では、人間・社会・自然との調和を目指したデザイン・建築を創造できる人材教育を目指し、学部の基礎的な共通教育に加えて、実学教育を中核とした各分野の専門教育により、地域社会や国際社会の持続的発展に貢献できるスペシャリストを育成する教育を充実させる。</p> <p>特に、建築分野においては、インテリアから建築設計を中心に、地域計画に至るまで、建築に関わる幅広い知識と高度な技能を修得し、建築家や建築分野の専門家の育成を目指す。</p>	<p>[3]</p> <p>・デザイン学部</p> <p>学科改編と「吉備の杜」創造戦略プロジェクトによる新カリキュラムの効果を点検し、教育内容の改善を行う。また、研究科対象の科目を学部生が受講できる仕組みづくりを進める。</p> <p>質の高い学生確保のため、入試結果についての分析を行うとともに、オンラインやSNSを活用した効果的な入試広報を進める。</p>	<p>[3]</p> <p>・デザイン学部</p> <p>学科改編後の新学科での開講科目について点検し、成績評価の方法等の見直しを行った。</p> <p>卒業研究において、評価の質と公平性を向上させるためのルーブリック評価が定着した。また、地域課題に取り組む研究テーマの増加が見られた。</p>	3	3	

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見																																																												
<p>(参考指標) ([1]~[3])</p> <ul style="list-style-type: none"> 修業年限内卒業率 卒業時及び卒業生に対する調査による教育満足・充実度等 卒業生の就職率(%) <table border="1" data-bbox="120 395 566 624"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>現状(H29年度卒)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健福祉学部</td> <td>97.7</td> <td>99.0</td> </tr> <tr> <td>情報工学部</td> <td>96.9</td> <td>98.0</td> </tr> <tr> <td>デザイン学部</td> <td>88.1</td> <td>90.0</td> </tr> <tr> <td>学部計</td> <td>95.3</td> <td>97.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※就職率=就職者数/就職希望者数</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業生の進学率(%) <table border="1" data-bbox="120 687 566 916"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>現状(H29年度卒)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健福祉学部</td> <td>6.3</td> <td>8.0</td> </tr> <tr> <td>情報工学部</td> <td>30.8</td> <td>32.0</td> </tr> <tr> <td>デザイン学部</td> <td>3.9</td> <td>5.0</td> </tr> <tr> <td>学部計</td> <td>15.5</td> <td>17.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※進学率=進学者数/卒業生数</p> <ul style="list-style-type: none"> ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)の検証に基づくカリキュラム及び実施方法の見直し状況 	学部名	現状(H29年度卒)	目標	保健福祉学部	97.7	99.0	情報工学部	96.9	98.0	デザイン学部	88.1	90.0	学部計	95.3	97.0	学部名	現状(H29年度卒)	目標	保健福祉学部	6.3	8.0	情報工学部	30.8	32.0	デザイン学部	3.9	5.0	学部計	15.5	17.0		<p>(参考指標) ([1]~[3])</p> <ul style="list-style-type: none"> 修業年限内卒業率(%) <table border="1" data-bbox="1117 300 1554 499"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>R4実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健福祉学部</td> <td>96.0</td> </tr> <tr> <td>情報工学部</td> <td>86.1</td> </tr> <tr> <td>デザイン学部</td> <td>83.0</td> </tr> <tr> <td>学部計</td> <td>89.0</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 卒業生の就職率(%) <table border="1" data-bbox="1117 531 1554 730"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>R4実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健福祉学部</td> <td>99.3</td> </tr> <tr> <td>情報工学部</td> <td>99.0</td> </tr> <tr> <td>デザイン学部</td> <td>95.9</td> </tr> <tr> <td>学部計</td> <td>98.4</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 卒業生の進学率(%) <table border="1" data-bbox="1117 762 1554 962"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>R4実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健福祉学部</td> <td>8.0</td> </tr> <tr> <td>情報工学部</td> <td>30.8</td> </tr> <tr> <td>デザイン学部</td> <td>8.1</td> </tr> <tr> <td>学部計</td> <td>16.8</td> </tr> </tbody> </table>	学部名	R4実績	保健福祉学部	96.0	情報工学部	86.1	デザイン学部	83.0	学部計	89.0	学部名	R4実績	保健福祉学部	99.3	情報工学部	99.0	デザイン学部	95.9	学部計	98.4	学部名	R4実績	保健福祉学部	8.0	情報工学部	30.8	デザイン学部	8.1	学部計	16.8			
学部名	現状(H29年度卒)	目標																																																															
保健福祉学部	97.7	99.0																																																															
情報工学部	96.9	98.0																																																															
デザイン学部	88.1	90.0																																																															
学部計	95.3	97.0																																																															
学部名	現状(H29年度卒)	目標																																																															
保健福祉学部	6.3	8.0																																																															
情報工学部	30.8	32.0																																																															
デザイン学部	3.9	5.0																																																															
学部計	15.5	17.0																																																															
学部名	R4実績																																																																
保健福祉学部	96.0																																																																
情報工学部	86.1																																																																
デザイン学部	83.0																																																																
学部計	89.0																																																																
学部名	R4実績																																																																
保健福祉学部	99.3																																																																
情報工学部	99.0																																																																
デザイン学部	95.9																																																																
学部計	98.4																																																																
学部名	R4実績																																																																
保健福祉学部	8.0																																																																
情報工学部	30.8																																																																
デザイン学部	8.1																																																																
学部計	16.8																																																																
<p>[4]</p> <p>地域に愛着を持ち、その発展に寄与する意欲・能力を育むため、COC+の一環として設置した副専攻「岡山創生学」の成果を継承し、さらなる地域連携教育の充実・改善を図る。</p>	<p>[4]</p> <p>副専攻「吉備の杜」の岡山創生学課程と吉備の杜クリエイター課程において相互で密に連携し、副専攻科目の実施と検証を行い、社会連携教育の充実を行う。</p> <p>地域創生推進士の新規認定要件として制度化した準正課活動の拡充に努める。</p>	<p>[4]</p> <p>副専攻「吉備の杜」(岡山創生学課程、吉備の杜クリエイター課程)を、オンラインと対面を併用しながら、全ての科目を開講し、地域創生推進士23名、地域創生クリエイター11名を認定した。</p> <p>説明会や広報物により学内外で副専攻の教育理念の理解の促進、履修者の増加を図り、吉備の杜クリエイター課程の学外履修者24名を受け入れた。</p>	2	2	副専攻「吉備の杜」の教育内容の充実や学内外への周知を進め、県内就職率の向上につなげてほしい。																																																												

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見																																																														
<p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合(%) <table border="1" data-bbox="123 331 577 440"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H29年度卒)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>51.8</td> <td>55.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域連携教育の実施状況(地域の学外関係者による講座数を含む。) 	項目	現状(H29年度卒)	目標	全学部平均	51.8	55.0	<p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合(%) <table border="1" data-bbox="622 331 1055 411"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R4目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>54.0</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R4目標	全学部平均	54.0	<p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合(%) <table border="1" data-bbox="1122 331 1559 411"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R4実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>48.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域連携教育の実施状況 副専攻科目の単位修得者数(人) <table border="1" data-bbox="1137 528 1630 1430"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>社会連携要論</td><td>336</td></tr> <tr><td>地域創生演習</td><td>102</td></tr> <tr><td>地域資源論</td><td>381</td></tr> <tr><td>地域創生実践論</td><td>54</td></tr> <tr><td>社会を生きる力を学ぶ</td><td>66</td></tr> <tr><td>地域インターンシップ</td><td>19</td></tr> <tr><td>地方自治論Q</td><td>36</td></tr> <tr><td>エンジニアリング演習</td><td>23</td></tr> <tr><td>地域デザイン演習</td><td>5</td></tr> <tr><td>フードビジネス学</td><td>29</td></tr> <tr><td>チームガバナビリティ演習</td><td>22</td></tr> <tr><td>地域保健福祉演習</td><td>8</td></tr> <tr><td>未来型プロジェクト<食></td><td>11</td></tr> <tr><td>組込みシステム</td><td>90</td></tr> <tr><td>技術者と社会</td><td>51</td></tr> <tr><td>セキュリティ総論</td><td>69</td></tr> <tr><td>知的制御システム</td><td>45</td></tr> <tr><td>未来型プロジェクト<ICT></td><td>3</td></tr> <tr><td>森林生態学・地盤工学</td><td>12</td></tr> <tr><td>森林・木材学演習</td><td>18</td></tr> <tr><td>木構造学・木構造デザイン</td><td>14</td></tr> <tr><td>環境デザイン演習</td><td>11</td></tr> <tr><td>未来型プロジェクト<森と木></td><td>3</td></tr> </tbody> </table>	項目	R4実績	全学部平均	48.0	科目名	人数	社会連携要論	336	地域創生演習	102	地域資源論	381	地域創生実践論	54	社会を生きる力を学ぶ	66	地域インターンシップ	19	地方自治論Q	36	エンジニアリング演習	23	地域デザイン演習	5	フードビジネス学	29	チームガバナビリティ演習	22	地域保健福祉演習	8	未来型プロジェクト<食>	11	組込みシステム	90	技術者と社会	51	セキュリティ総論	69	知的制御システム	45	未来型プロジェクト<ICT>	3	森林生態学・地盤工学	12	森林・木材学演習	18	木構造学・木構造デザイン	14	環境デザイン演習	11	未来型プロジェクト<森と木>	3			
項目	現状(H29年度卒)	目標																																																																	
全学部平均	51.8	55.0																																																																	
項目	R4目標																																																																		
全学部平均	54.0																																																																		
項目	R4実績																																																																		
全学部平均	48.0																																																																		
科目名	人数																																																																		
社会連携要論	336																																																																		
地域創生演習	102																																																																		
地域資源論	381																																																																		
地域創生実践論	54																																																																		
社会を生きる力を学ぶ	66																																																																		
地域インターンシップ	19																																																																		
地方自治論Q	36																																																																		
エンジニアリング演習	23																																																																		
地域デザイン演習	5																																																																		
フードビジネス学	29																																																																		
チームガバナビリティ演習	22																																																																		
地域保健福祉演習	8																																																																		
未来型プロジェクト<食>	11																																																																		
組込みシステム	90																																																																		
技術者と社会	51																																																																		
セキュリティ総論	69																																																																		
知的制御システム	45																																																																		
未来型プロジェクト<ICT>	3																																																																		
森林生態学・地盤工学	12																																																																		
森林・木材学演習	18																																																																		
木構造学・木構造デザイン	14																																																																		
環境デザイン演習	11																																																																		
未来型プロジェクト<森と木>	3																																																																		

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
		<p>[評価時の観点] 副専攻「吉備の杜」の教育内容の充実、学内外への周知は進んでいるものの、成果指標である県内就職率は目標に届かなかった。</p>			
<p>[5] 地域社会及びその延長上の国際社会のニーズに即した人材を適切かつ効果的に育成するとともに、教育研究面での本学の特色を伸長させるため、教育研究組織の見直しについて検討する。</p>	<p>[5] 内部質保証推進会議で設定したアセスメントプランを公表し、これに従った教学アセスメントを進めることで、学修者本位の教育の実現を目指す。</p>	<p>[5] カリキュラムの充実を目的として、アセスメントプランに従って分析した IR データに基づく評価を行った上で改善に取り組み、情報工学部を中心としたカリキュラムの充実、英語教育の Advanced Class の運用の改善を含むグローバル教育の充実、厳格な成績評価に向けたルーブリックの導入、共通教育科目におけるキャリア教育の推進に努めた。</p>	3	3	

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 1 教育に関する目標達成するためとるべき措置
 (1) 教育内容の充実に関する目標を達成するためとるべき措置
 イ 大学院教育

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見														
<p>[6] ・保健福祉学研究科 保健福祉学研究科では、保健・医療・福祉分野における問題点を提起してそれを解決し得る高度な研究能力を持つとともに、専門職としての知識・技術を身に付けることにより、少子・超高齢化とグローバル化の進む地域社会において、健康、福祉に関する高度な課題の解決に貢献できる人材を育成する教育を充実させる。</p> <p>成果指標</p> <table border="1"> <tr> <td>試験名</td> <td>現状(H29年度)</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>保健師</td> <td>87.5</td> <td>90.0</td> </tr> </table>	試験名	現状(H29年度)	目標	保健師	87.5	90.0	<p>[6] ・保健福祉学研究科 「吉備の杜」創造戦略プロジェクトにおける新設演習科目の内容に関する評価を行い、充実を図る。また、海外の研究者によるオンラインを活用したグローバル専門教育を行う。 保健師国家試験の高い合格率を維持するための指導を継続する。</p> <p>成果指標</p> <table border="1"> <tr> <td>試験名</td> <td>R4目標</td> </tr> <tr> <td>保健師</td> <td>90.0</td> </tr> </table>	試験名	R4目標	保健師	90.0	<p>[6] ・保健福祉学研究科 カリキュラムを通して保健師国家試験に向けた対策講義を実施した。 個別の就職・進学支援のほか、福祉行政職のインターンシップ情報の提供や就職セミナーを開催した。 副専攻「吉備の杜」の創造戦略プロジェクト<食>により、地域・企業と連携した実践的な専門教育を行った。 韓国又松大学、米国ウィスコンシン大学マディソン校の教員及びカタル在住の客員教授とオンラインでの学術交流会を実施した。</p> <p>成果指標</p> <table border="1"> <tr> <td>試験名</td> <td>R4実績</td> </tr> <tr> <td>保健師</td> <td>100</td> </tr> </table> <p>[評価時の観点] 保健師国家資格合格率が100%と目標を達成したほか、地域や海外と連携した専門教育の充実も進めることができた。</p>	試験名	R4実績	保健師	100	4	4	国家試験合格率100%を維持するとともに、地域や海外と連携した専門教育の充実を進めており、評価できる。
試験名	現状(H29年度)	目標																	
保健師	87.5	90.0																	
試験名	R4目標																		
保健師	90.0																		
試験名	R4実績																		
保健師	100																		
<p>[7] ・情報系工学研究科 情報系工学研究科では、情報技術を活用して、人間・社会・自然との調和を図りながら、グローバルな視野に立って主導的に第4次産業革命を押し進</p>	<p>[7] ・情報系工学研究科 「吉備の杜」創造戦略プロジェクトの授業科目の内容を充実させ、ヒューマンスキルの育成に努める。 岡山県立大学協力会と協働してカリ</p>	<p>[7] ・情報系工学研究科 新入生に副専攻を周知し、履修を促進するとともに、創造戦略プロジェクト<ICT>では企業から提供されたテーマで実践的な課題に取り組むなど、ヒューマンスキルの育成に</p>	3	3															

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
<p>め、超スマート社会及び地域社会の中核で活躍できる技術者を育成する教育を充実させる。</p>	<p>キュラムの充実を図る。 大学院修了者の進路決定率を向上する企業説明会の在り方を検討する。</p>	<p>向けた教育内容の充実を図った。 地元企業による業種説明会の開催やキャリア教育科目「産業技術特別講義」の立ち上げなど、企業と連携したキャリア形成・就職支援に取り組んだ。</p>			
<p>[8] ・デザイン学研究科 デザイン学研究科では、グローバルな視野と感性を持ち、社会を的確に捉え、時代の変化を洞察することで、将来予想される問題を優れたデザインの創出により解決し、豊かで新しい便利な生活と文化に寄与できる人材を育成する教育を充実させる。</p>	<p>[8] ・デザイン学研究科 学生の自主的な研究・制作活動を促進するため、学会発表やコンペティションへの積極的な参加をサポートする。 「吉備の杜」創造戦略プロジェクトの授業科目の内容の充実を継続しつつ、リカレント教育について具体的に検討する。</p>	<p>[8] ・デザイン学研究科 定員確保に向けて、学部4年次ゼミを通して大学院進学についての説明を行い、定員充足率の向上につなげた。修士課程学位審査基準の見直しに伴い、論文及び特定の課題に対する審査基準を整備した。特別研究に対するルーブリック評価を作成し、次年度シラバスへ反映させた。 研究科の改組を行うために専攻、定員、カリキュラム等について検討を進めた。</p> <p>[評価時の観点] 定員充足率に関しては、若干の改善が見られるものの、引き続き定員確保に向けた対策が必要である。</p>	2	2	定員確保に向けた対策を検討してほしい。

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見																										
<p>成果指標〔〔6〕～〔8〕〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学院修了者の進路決定率（％） <table border="1" data-bbox="125 300 560 405"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H29年度)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全研究科平均</td> <td>97.8</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考指標)〔〔6〕～〔8〕〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 各研究科の定員充足率 修了時及び修了生に対する調査による教育満足・充実感等 	項目	現状(H29年度)	目標	全研究科平均	97.8	100	<p>成果指標〔〔6〕～〔8〕〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学院修了者の進路決定率（％） <table border="1" data-bbox="618 300 1057 379"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R4目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全研究科平均</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R4目標	全研究科平均	100	<p>成果指標〔〔6〕～〔8〕〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学院修了者の進路決定率（％） <table border="1" data-bbox="1120 300 1572 379"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R4実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全研究科平均</td> <td>97.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考指標)〔〔6〕～〔8〕〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 各研究科の定員充足率（％）※収容定員に対する充足率 <table border="1" data-bbox="1120 507 1572 884"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R4実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健福祉学研究科(博士前期)</td> <td>102.5</td> </tr> <tr> <td>情報系工学研究科(博士前期)</td> <td>108.7</td> </tr> <tr> <td>デザイン学研究科(修士)</td> <td>65.6</td> </tr> <tr> <td>保健福祉学研究科(博士後期)</td> <td>233.3</td> </tr> <tr> <td>情報系工学研究科(博士後期)</td> <td>50.0</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R4実績	全研究科平均	97.5	項目	R4実績	保健福祉学研究科(博士前期)	102.5	情報系工学研究科(博士前期)	108.7	デザイン学研究科(修士)	65.6	保健福祉学研究科(博士後期)	233.3	情報系工学研究科(博士後期)	50.0			
項目	現状(H29年度)	目標																													
全研究科平均	97.8	100																													
項目	R4目標																														
全研究科平均	100																														
項目	R4実績																														
全研究科平均	97.5																														
項目	R4実績																														
保健福祉学研究科(博士前期)	102.5																														
情報系工学研究科(博士前期)	108.7																														
デザイン学研究科(修士)	65.6																														
保健福祉学研究科(博士後期)	233.3																														
情報系工学研究科(博士後期)	50.0																														

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 1 教育に関する目標を達成するためとるべき措置
 (2) 教育方法等の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見								
<p>[9] 学習成果を上げるため、主体的・協働的な学び(アクティブ・ラーニング)の導入・推進など教育方法の改善を図る。</p> <p>成果指標 ・アクティブ・ラーニングの推進状況 (2年目以降に具体数値目標等設定)</p>	<p>[9] アクティブ・ラーニング、オンライン授業などに関するFD・SD研修会の開催や、オンライン授業を含む相互授業参観に対する意見交換会により集約したアクティブ・ラーニング事例や授業改善案などの共有を通じ、教員の教育力向上に努める。</p> <p>成果指標 ・アクティブ・ラーニングの推進状況 (%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R4目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アクティブ・ラーニングの導入率</td> <td>80</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R4目標	アクティブ・ラーニングの導入率	80	<p>[9] 多くの授業科目が対面授業に戻り、アクティブ・ラーニング実施率は84.8%となった。相互授業参観とそれに基づく意見交換会を実施し、教員相互での授業改善に取り組んだ。計10回のFD・SD研修会を開催し、教員参加率は81.0% (124/153)であった。</p> <p>成果指標 ・アクティブ・ラーニングの推進状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R4実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アクティブ・ラーニングの導入率</td> <td>84.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>[評価時の観点] アクティブ・ラーニングの導入率が目標を達成するなど、授業改善、教育力向上に向けた取組を進めることができた。</p>	項目	R4実績	アクティブ・ラーニングの導入率	84.8	4	4	授業の改善や教育力向上に向けた取組を進めることができおり、評価できる。
項目	R4目標												
アクティブ・ラーニングの導入率	80												
項目	R4実績												
アクティブ・ラーニングの導入率	84.8												
<p>[10] 学生・教職員の教育研究活動を推進するため、必要な施設・設備等の充実を図り、教育研究環境の改善に努める。</p>	<p>[10] 必要な施設・設備等の充実を図るため、予算編成時期に合わせ設備等の要望調査を行い、整備に努める。また、引き続き無線LAN設備の強化を進める。</p>	<p>[10] 予算編成時期に設備等の要望調査を実施し、限られた予算の中で緊急性を考慮し、以下の整備を行った。 ・デザイン学部講義室環境整備 ・高速液体クロマトグラフ</p>	3	3									
<p>[11] 教育プログラム(科目)として、県内の自治体、企業等へのインターンシップを実施し、県内企業等を知る機会を増やすとともに、職業観の醸成など、</p>	<p>[11] 副専攻「吉備の杜」の岡山創生学課程と吉備の杜クリエイター課程において相互で密に連携し、コロナ禍の社会情勢の変化に柔軟に対応できるよう教</p>	<p>[11] コロナ禍においても、企業の協力を得て「エンジニアリング演習」のインターンシップを現地で実施した。「地域インターンシップ」は、実習期間の見直しにより、複数の企業・</p>	3	3									

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見														
<p>学生のキャリア形成の支援に努める。 なお、インターンシップの実施に当たっては、受入先との連携を密に行うとともに、大学において事前学習及び報告会を実施するなど教育効果が高まるよう努める。</p> <p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 長期インターンシップ参加者数(人) <table border="1" data-bbox="123 528 571 608"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H30年度)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>55</td> <td>55</td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状(H30年度)	目標	参加者数	55	55	<p>育プログラム(科目)としてのインターンシップの内容の充実を行う。</p> <p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 長期インターンシップ参加者数(人) <table border="1" data-bbox="616 400 1052 480"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R4目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>55</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R4目標	参加者数	55	<p>団体等において実施できる環境を整備し、自治体と企業等での就業体験の組み合わせにより、充実した実習を行うことができた。 吉備の杜クリエイター課程及びプロデューサー課程のPBL科目について、企業・団体と学生の間でテーマのマッチングを図りながら受け入れ先の開拓を行った。</p> <p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 長期インターンシップ参加者数(人) <table border="1" data-bbox="1115 560 1585 651"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R4実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>42</td> </tr> </tbody> </table> <p>(内訳) 地域インターンシップ：19人 エンジニアリング演習：23人</p>	項目	R4実績	参加者数	42			
項目	現状(H30年度)	目標																	
参加者数	55	55																	
項目	R4目標																		
参加者数	55																		
項目	R4実績																		
参加者数	42																		

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
2 学生の確保に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見														
<p>[12] 新たな入試制度が始まる平成33(2021)年度入試に対応するため学士課程入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)の見直しとそれに基づく入学者選抜を実施するとともに、実施結果の点検・評価に基づき改善を図る。 さらに、新高等学校学習指導要領に基づく教育を受けた平成37(2025)年度入学者の受入れに向けて入学者選抜方法やカリキュラムの改善を図る。</p> <p>(参考指標) ・入試実施状況、入学者選抜に係る変更状況</p>	<p>[12] 新学習指導要領に基づく教育を受けた令和7(2025)年度入学者の受入れに向けて入学者選抜方法やアドミッション・ポリシーを検討し、令和4年秋に公表する。</p>	<p>[12] 新学習指導要領を踏まえた令和7(2025)年度入試に向けて、アドミッション・ポリシー、募集人員の配分、選抜方法等を見直し公表した。 令和3年度と4年度実施の特別選抜・一般選抜の点検、評価、データ解析を行い、選抜方法やカリキュラム改善など今後の入試改革に向けて各学部、学科と共有した。 感染症対策を含め、適切な入学者選抜試験を実施した。 高等学校長協会からの要望を踏まえ、一般入試の志望理由書をパソコンで作成できるように改善した。</p>	3	3															
<p>[13] 加速する18歳人口の減少により大学間競争が激化し、かつ、多様化する入学者選抜に備えて、アドミッション・オフィス機能を整備し、志願者動向等についての調査・分析による入学者選抜等の改善を図るとともに、本学の教育研究の特色・強みを効果的に周知するため、戦略的な入試広報の充実を図り、本学への志願者数を維持する。</p> <p>成果指標 ・一般前期入試での志願倍率(倍)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H26-H31年度入試)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>3.2</td> <td>3.2</td> </tr> </tbody> </table>	項目	現状(H26-H31年度入試)	目標	全学部平均	3.2	3.2	<p>[13] ホームページの改修に伴い、SNSなどを活用して戦略的な入試広報を実施するため、ステークホルダーのニーズ調査を行う。また、令和3年度に発足した学生広報委員会とともに積極的な広報活動を推進する。</p> <p>成果指標 ・一般前期入試での志願倍率(倍)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R4目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>3.2</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R4目標	全学部平均	3.2	<p>[13] SNS(LINE)を活用した情報発信を行うとともに、学生広報委員が入試イベントで積極的にPRするなど、学生目線での入試広報を推進した。 高校訪問を88件行ったほか、進学ガイダンスへの参加、高校からの訪問受入等、積極的な入試広報活動を行った。</p> <p>成果指標 ・一般前期入試での志願倍率(倍)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R4実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>2.8</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R4実績	全学部平均	2.8	3	3	
項目	現状(H26-H31年度入試)	目標																	
全学部平均	3.2	3.2																	
項目	R4目標																		
全学部平均	3.2																		
項目	R4実績																		
全学部平均	2.8																		

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
<p>[14] 高校生のための大学授業開放や高校への講師派遣、高校の進路指導担当教員との意見交換会など、各種の高大連携事業の方法・内容の改善を図るとともに、効果的な事業の開発、推進を図る。</p> <p>(参考指標) ・高大連携における教育的事業／広報的事業の実施状況(件数等)</p>	<p>[14] 各種入試広報事業を学生広報委員会とともに実施しつつ、コロナ禍における効果的な拡充実施の方法について検討を進める。</p>	<p>[14] オープンキャンパス、教育と入試説明会、高校生のための授業開放等、高校生や保護者を対象としたイベントを開催し、学生広報委員会により受験生の側に立った説明を取り入れるなど、効果的な入試広報に取り組んだ。 高校生と大学生がともに学習成果を発表する「高校生と大学生の地域における探究学習の成果報告会」、高校進路指導教員や校長協会との懇談会、県内高校校長の有志との高大連携作業部会等を実施し、高校との連携を深めるとともに、今後の入試改革等に向けた意見交換、情報収集を行った。</p>	3	3	

- 第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 3 学生の支援に関する目標を達成するためとるべき措置
 (1) 学習支援の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見								
<p>[15] 附属図書館において、学生等の多様なニーズに応えるため、学習空間の提供、教育研究・学習に必要な資料の整備・充実、教育研究支援等、図書館サービスの充実に取り組む。</p> <p>(参考指標) ・附属図書館の利用状況及び満足度</p>	<p>[15] 図書館及び所蔵資料の利用状況等の調査分析を進め、サービスの向上と見直しを継続的に行うとともに、学生による選書事業等、学生目線による蔵書の充実を図る。</p>	<p>[15] 各学科の選書により電子書籍を整備し、所蔵数は約1,400タイトルとなった。 学生から要望がある一般書を揃えるため、新たに電子図書館システムの導入を決定したほか、教員アンケートや利用状況等を基に蔵書の整理を行った。 電子ブックリクエストフェア、ブックフェア、選書ツアー、学生希望図書等の学生目線による選書イベントを開催し、約250冊の図書を購入した。</p>	3	3									
<p>[16] アクティブ・ラーニングに対応する教室や自習環境の充実、学習環境整備や学内の連携体制などを工夫・改善し、学習支援の充実に取り組む。</p> <p>成果指標 ・アクティブ・ラーニングの推進状況(2年目以降に具体数値目標等設定)(再掲：9)</p> <p>(参考指標) ・学生の自習状況及び学内の自習環境に対する利用状況・満足度(演習室の延べ利用者数、自習に関するアンケート)</p>	<p>[16] アクティブ・ラーニング対応教室の利用状況、オンライン授業におけるアクティブ・ラーニング導入事例などを調査し、改善点を抽出する。また、学内各施設・組織の協働により、学生の自主学習環境の充実を図る。</p> <p>成果指標 ・アクティブ・ラーニングの推進状況(再掲：9)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R4目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アクティブ・ラーニングの導入率</td> <td>80</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R4目標	アクティブ・ラーニングの導入率	80	<p>[16] アクティブ・ラーニング実施率は84.8%となり、学生の能動的な学習を促すことができた。 アクティブ・ラーニング対応教室に対する教員視点の要望を調査し、ホワイトボードのクリーニングとプロジェクタ投影時の反射低減について対応を進めることとした。 学生生活アンケートにより、学生の自主学習環境の利用状況を調査し、約80%の学生がラーニングコモンズを利用している結果を受け、対面授業への回帰に合わせたさらなる周知と環境の充実を検討した。</p> <p>成果指標 ・アクティブ・ラーニングの推進状況(再掲：9)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R4実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アクティブ・ラーニングの導入率</td> <td>84.8</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R4実績	アクティブ・ラーニングの導入率	84.8	4	4	教員や学生の意見を聞きながら学習環境の充実を進めており、評価できる。
項目	R4目標												
アクティブ・ラーニングの導入率	80												
項目	R4実績												
アクティブ・ラーニングの導入率	84.8												

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
		<p>[評価時の観点] アクティブ・ラーニングの導入率が目標を達成したほか、教員及び学生からの学習環境に関する意見・要望を調査するなど、改善に向けた取組を進めた。</p>			
<p>[17] 学修支援体制の充実を図るため、学生毎にアドバイザー教員を決め進路や学業などの相談を受けるアドバイザー制度及び教員が学生の訪問時間帯を設けて研究室で待機し、授業等の疑問点や個人的な悩みなどの相談を受けるオフィスアワーを活用するとともに、学生に授業等の補助を担わせるスチューデント・アシスタント制度の整備に努める。</p> <p>(参考指標) ・スチューデント・アシスタント(SA)制度の整備・利活用状況、アドバイザー面談、オフィスアワーの実施状況(関連：第2-3-(2)生活支援の充実)</p>	<p>[17] 教職員のための学生対応マニュアルを活用し、アドバイザー制度、オフィスアワー制度による学生支援を充実させるとともに、面談報告書の分析から学生の課題を抽出する。また、スチューデント・アシスタント制度の整備を実施する。</p>	<p>[17] 運用1年目となる「教職員のための学生対応マニュアル」について、質問窓口を周知するなど、効果的な運用に取り組んだ。 令和4年度の休退学時面談報告書を集計し、改善方針を決定したほか、令和5年度からのスチューデント・アシスタント制度の開始に向けて実施要領等を作成するなど、学修支援の充実を進めた。 アドバイザー面談、オフィスアワーともに実施し、アドバイザー面談は高い実施率であった。</p> <p>(参考指標) ・アドバイザー面談の実施率：前期 97.1% 後期 98.4%</p>	3	3	

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
<p>[18] 学生の豊かな人格形成に資するため、大学との連携の下、学生が主体となり学内外のボランティア活動や授業、教育、学内環境改善等に関わる活動である学生FD(ファカルティ・ディベロップメント)活動を推進するなど、学生の主体性を尊重した正課外活動支援体制の整備に努める。</p> <p>(参考指標) ・学生の正課外活動への支援状況 ・正課外ボランティア活動への参加状況(参加要請数、参加延学生数)</p>	<p>[18] 学生の積極的なボランティア活動や準正課活動、学生FD活動について、学生団体への情報提供や助言を行うとともに、より学生の主体的な活動を支援するための体制整備を検討する。</p>	<p>[18] 学外からのボランティア募集情報について学生に発信し、参加を促すとともに、外部講師を招いての学内での災害ボランティア研修、SDGsボランティア研修を実施した。 学内のボランティア活動・地域活動団体のメンバーの募集や、活動に関する相談等、学生の主体的活動を支援した。 ラーニングコモンズとして活用を促進しているサービスラーニング室の年間の利用者数は延べ790名であった。 学生団体によるオープンキャンパスでの高校生への相談、新入生歓迎企画をはじめとした季節ごとのイベント、ウクライナ及びトルコへの募金活動の支援を行った。</p> <p>(参考指標) ・学生の正課外活動への支援状況 ・正課外ボランティア活動への参加状況 ボランティア活動：申込者数延べ114名 ボランティア研修：申込者数延べ105名 災害ボランティア研修(学内)：参加者13名 SDGsボランティア研修(学内)：参加者8名 岡山NPOセンター主催「ボランティア活動を考える夜」：参加者3名</p>	3	3	

- 第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 3 学生の支援に関する目標を達成するためとるべき措置
 (2) 生活支援の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
<p>[19] 学生のメンタルサポートのために、学生相談体制の充実を図るとともに、保健室、アドバイザー教員と連携した支援に努める。 また、奨学金制度や授業料減免制度について周知を図り、財源に応じた経済支援を行うほか、国の高等教育段階の教育費負担軽減新制度(平成32(2020)年度開始予定)に備え、必要に応じ準備・適用を行う。</p> <p>(参考指標) ・各窓口の利用状況 ・退学・休学者数 ・修業年限内卒業率 ・スチューデント・アシスタント(SA)制度の整備・利活用状況、アドバイザー面談、オフィスアワーの実施状況(再掲：17) ・減免適用状況(学生数・減免総額) (※平成32(2020)年度から適用となれば国の給付型奨学金の適用状況)</p>	<p>[19] 教職員のための学生対応マニュアルを踏まえ、学生を多面的に支援する体制を整える。 財政的に困窮している学生に対して奨学金や授業料減免制度の周知を行い、財源に応じた経済支援を行う。</p>	<p>[19] 学生相談室を中心に、精神科校医によるメンタルヘルス研修会を開催し、発達障がいや精神障がいの学生対応、架空の学生事例に対する助言等、実態に則した研修を実施した。 令和4年後期から選考基準を一部改正した授業料減免制度について説明会を開催し、周知を行うとともに、団体から寄贈された食料支援物資を配付し、経済支援を行った。 障がい等、心身のサポートが必要な学生(疑いのある学生を含む)やその支援に従事する教職員の相談業務を行う学生支援コーディネーターの設置について検討し、令和5年度から設置することとした。</p> <p>(参考指標) ・各窓口の利用状況(延べ人数) 学生相談室：学生290人、その他10人 保健室：301人 ・退学・休学者数 退学者：学部29人、大学院13人 休学者：学部36人、大学院19人 ・修業年限内卒業率 学部：89.0% 大学院(博士前期・修士)：84.5% 大学院(博士後期)：12.5% ・授業料減免適用状況 修学支援新制度 申請件数：364件 減免総額：87,719千円 独自減免</p>	3	3	

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
<p>[20] 障がい学生等が充実した生活を送ることができるよう合理的配慮の充実に努める。</p> <p>(参考指標) ・ 配慮要請件数と合理的配慮提供件数</p>	<p>[20] 障がい学生支援のあり方等について、研修会や教職員のための学生対応マニュアルを通して周知を図り、適切な対応に努める。また、予算の必要な配慮については、計画的に要求しながら実現に向けた検討を行う。</p>	<p>申請件数：39件 減免総額：5,134千円</p> <p>[20] 障がい学生支援に関する学外の研修会について教職員へ参加を促すとともに、学内の研修会において、適切な配慮と学生対応マニュアルの活用を呼びかけた。 入学生4名を含む全18名に対して合理的配慮を提供するとともに、その情報を教科担当の教員に迅速に共有した。また、適切な配慮の提供について検証するため、配慮要請更新時にアンケート調査を行った。 特に配慮を要する学生を支援するため、学生支援コーディネーターを令和5年度から新設することとした。</p> <p>(参考指標) ・ 配慮要請件数：5件 ・ 合理的配慮提供件数：18件</p> <p>[評価時の観点] 配慮申請があった学生に対して合理的配慮を提供するとともに、研修会やマニュアル、学生支援コーディネーターの新設により、さらなる支援の充実にに向けた取組も進んでいる。</p>	4	4	<p>配慮を要する学生への支援の充実にに向けた取組を進めており、評価できる。</p>

- 第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 3 学生の支援に関する目標に関する目標を達成するためとるべき措置
 (3) 就職支援の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見																																							
<p>[21] これまで学部学科別等、個別に実施していた就職支援について情報を共有するとともに、学生への多様な就職支援策を充実させるため、キャリア形成支援及び学生生活支援の柱となるキャリア・学生生活支援センター(仮称)を設置し、各種支援を充実させる。</p> <p>成果指標 ・就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合(%) (再掲：4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H29年度卒)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>51.8</td> <td>55.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考指標) ・就職満足度(卒業時アンケート) ・卒業生の就職率(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>現状(H29年度卒)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健福祉学部</td> <td>97.7</td> <td>99.0</td> </tr> <tr> <td>情報工学部</td> <td>96.9</td> <td>98.0</td> </tr> <tr> <td>デザイン学部</td> <td>88.1</td> <td>90.0</td> </tr> <tr> <td>学部計</td> <td>95.3</td> <td>97.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※就職率=就職者数/就職希望者</p>	項目	現状(H29年度卒)	目標	全学部平均	51.8	55.0	学部名	現状(H29年度卒)	目標	保健福祉学部	97.7	99.0	情報工学部	96.9	98.0	デザイン学部	88.1	90.0	学部計	95.3	97.0	<p>[21] 県内企業インターンシップの広報、ニュースレターによる広報活動を活性化させるとともに、各学科と就職相談室の連携を更に強化する。 県内企業に就職した卒業生による「県大吉備塾」等の企画、岡山県立大学協力会との協働による学生の就職・キャリア形成支援等の各種支援策を強化する。</p> <p>成果指標 ・就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合(%) (再掲：4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R4目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>54.0</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R4目標	全学部平均	54.0	<p>[21] 掲示や広報物を通じて学生への県内企業の周知を図るとともに、岡山県立大学協力会によるオンライン業種説明会(参加学生延べ191名)、対面業種説明会(参加学生延べ198名)、システムエンジニアリング岡山の対面合同説明会(参加学生延べ119名)を開催し、県内企業の魅力を伝えた。また、「県大吉備塾」では県内企業等に就職した卒業生の活躍から学生の就職・キャリア形成に対するモチベーションの向上を図った。 就職ガイダンス18講座(参加学生419名)、就職相談689件、来学企業対応290社、求人NAVIへの求人票アップロード986件を行うなど、学生の就職支援や情報提供の充実を図ったほか、各学生の内定状況を把握し、苦戦している学生については個別対応を行った。</p> <p>成果指標 ・就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合(%) (再掲：4)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R4実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>48.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考指標) ・卒業生の就職率(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>R4実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健福祉学部</td> <td>99.3</td> </tr> <tr> <td>情報工学部</td> <td>99.0</td> </tr> <tr> <td>デザイン学部</td> <td>95.9</td> </tr> <tr> <td>学部計</td> <td>98.4</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R4実績	全学部平均	48.0	学部名	R4実績	保健福祉学部	99.3	情報工学部	99.0	デザイン学部	95.9	学部計	98.4	2	2	
項目	現状(H29年度卒)	目標																																										
全学部平均	51.8	55.0																																										
学部名	現状(H29年度卒)	目標																																										
保健福祉学部	97.7	99.0																																										
情報工学部	96.9	98.0																																										
デザイン学部	88.1	90.0																																										
学部計	95.3	97.0																																										
項目	R4目標																																											
全学部平均	54.0																																											
項目	R4実績																																											
全学部平均	48.0																																											
学部名	R4実績																																											
保健福祉学部	99.3																																											
情報工学部	99.0																																											
デザイン学部	95.9																																											
学部計	98.4																																											

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見														
		<p>[評価時の観点] 副専攻「吉備の杜」の教育内容の充実、学内外への周知は進んでいるものの、成果指標である県内就職率は48.0%と目標に届かなかった。</p>																	
<p>[22] 企業等へのインターンシップに関する情報提供及び機会創出と併せて、学生のキャリア形成を支援する科目を充実させることで学生の主体的な職業選択を促し、職業意識を醸成させる。</p> <p>成果指標 ・長期インターンシップ参加者数(人) (再掲：11)</p> <table border="1" data-bbox="123 785 557 898"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H30年度)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>55</td> <td>55</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考指標) ・インターンシップ実施状況(参加延学生数等) ・キャリア形成を支援する科目の履修登録者数 ・各種就職ガイダンスの実施状況</p>	項目	現状(H30年度)	目標	参加者数	55	55	<p>[22] 企業からのインターンシップの案内について、従来の掲示等の他、授業等の機会も使い積極的に情報提供を行う。また、エンジニアリング演習、地域インターンシップ等の授業科目を学生へ浸透させるよう努める。 岡山県立大学協力会を中心とする県内企業にインターンシップ受入れの働きかけを行う。</p> <p>成果指標 ・長期インターンシップ参加者数(人) (再掲：11)</p> <table border="1" data-bbox="618 914 1014 994"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R4目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>55</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R4目標	参加者数	55	<p>[22] 掲示や広報物を通じて県内外のインターンシップ情報の周知を図るとともに、協力会を中心とする県内企業にインターンシップの働きかけを行い、受け入れ先企業・団体の拡充を図った。 学生のキャリア形成に活用するためのキャリアカルテの周知、利用促進を図った。</p> <p>成果指標 ・長期インターンシップ参加者数(人) (再掲：11)</p> <table border="1" data-bbox="1115 850 1547 930"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R4実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>43</td> </tr> </tbody> </table> <p>(内訳) 地域インターンシップ：20人 エンジニアリング演習：23人</p> <p>(参考指標) ・インターンシップ実施状況(参加延学生数等) 総社市インターンシップ：短期12人 長期4人 ・キャリア形成を支援する科目の履修登録者数 社会を生きる力を学ぶ：86名 ・各種就職ガイダンスの実施状況 実施件数：18件 参加学生数：約419人</p>	項目	R4実績	参加者数	43	3	3	
項目	現状(H30年度)	目標																	
参加者数	55	55																	
項目	R4目標																		
参加者数	55																		
項目	R4実績																		
参加者数	43																		

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
<p>[23] 卒業生に対して同窓会や各種フォーラム等への積極的な参加を呼びかけ、連携を深めることにより、在学生に対する助言・指導等の協力を得られるよう努める。</p> <p>(参考指標) ・ 県大吉備塾等、卒業生に協力を求める取組状況</p>	<p>[23] 「県大吉備塾」を開催し、県内外で活躍する本学卒業生を招き、仕事内容や業界情報、在学時の取組などの情報や知識を深め、就職やキャリア形成に対するモチベーションを向上させる取組を行う。</p> <p>同窓会との連携強化により、イベント等の広報活動を行うことで、卒業生の積極的な参加を呼びかける体制づくりを進める。</p>	<p>[23] 県大吉備塾を様々な形式で9回開催し、学生の就職・キャリア形成に対するモチベーションの向上を図った。参加した学生からは高い評価が得られ、講師の卒業生からも事業の有用性を評価されたが、より効果的な開催方法について検討を続けることとした。</p> <p>学生のキャリア形成支援を強化するため、就職相談室を拡張し、キャリア・就職相談室を設置するなど、体制の見直しを図った。</p> <p>(参考指標) ・ 県大吉備塾実施状況 実施回数：9回 参加学生：224人</p>	3	3	

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

4 研究に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 研究の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見														
<p>[24]</p> <p>学内の競争的研究資金のあり方を見直し、本学の研究活動における特色・強みを明確化するとともに、産業の振興や地域課題の解決の観点も踏まえ、重点的に取り組むべき研究分野を示し、研究力向上及び研究活動の活性化を図る。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究活動の特色や重点研究分野の明確化に関する推進状況 研究活性化の状況 	<p>[24]</p> <p>学内競争的資金制度の変更に対する評価を継続するとともに、研究活動を更に活性化・効率化させるため、学内競争的資金制度による論文成果数・外部資金への展開等の成果を可視化する仕組みを検討する。</p>	<p>[24]</p> <p>学内競争的資金により研究費の支援を行う中で、配分制度の分析・評価を継続し、研究活動を更に活性化・効率化させるため、特に重点領域研究と若手研究者の活性化を目的とした支援計画案を策定した。</p> <p>県の要望 (SDGs、DXを念頭に置いたテーマ) と本学のシーズとのマッチングを推進するためのスタディーミーティングを3件実施した。</p>	3	3															
<p>[25]</p> <p>競争的研究資金及び国・民間等の公募型研究助成事業への積極的な申請を奨励するとともに、採択率の向上に努める。</p> <p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 公募型研究助成事業の採択数(科学研究費補助金を除く。)(件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H25-H30.11月時点の平均)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>21.5</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table> <p>※「国・省庁の政府系助成金」及び「民間からの助成金」</p>	項目	現状(H25-H30.11月時点の平均)	目標	件数	21.5	25	<p>[25]</p> <p>外部競争的研究資金に関する公募情報を継続的に提供し、採択数の増加を図るとともに、科学研究費の申請書作成勉強会、提出前検討会等の申請支援活動の検証・強化を行い、新規採択率の向上に努める。</p> <p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 公募型研究助成事業の採択数(科学研究費補助金を除く。)(件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R4目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table> <p>※「国・省庁の政府系助成金」及び「民間からの助成金」</p>	項目	R4目標	件数	25	<p>[25]</p> <p>外部競争的研究資金の公募情報を周知するとともに応募を促し、採択数28件と前年の15件から向上した。</p> <p>科学研究費について、外部講師を招いた申請支援講演会、学内での申請勉強会と提出前検討会等、外部業者による添削等を行い、採択率向上に向けた支援を行った。</p> <p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 公募型研究助成事業の採択数(科学研究費補助金を除く。)(件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R4実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>28</td> </tr> </tbody> </table> <p>※「国・省庁の政府系助成金」及び「民間からの助成金」</p>	項目	R4実績	件数	28	3	3	
項目	現状(H25-H30.11月時点の平均)	目標																	
件数	21.5	25																	
項目	R4目標																		
件数	25																		
項目	R4実績																		
件数	28																		

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見														
<p>・科学研究費補助金採択率(%)</p> <table border="1" data-bbox="123 292 557 399"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状 (H25 - H30年度平均)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>採択率</td> <td>24.9</td> <td>27</td> </tr> </tbody> </table> <p>※第3期中期計画の期間において、経過年度の平均値で評定 (関連：第3-2-(1))</p>	項目	現状 (H25 - H30年度平均)	目標	採択率	24.9	27	<p>・科学研究費補助金採択率(%)</p> <table border="1" data-bbox="629 292 1025 371"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R4目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>採択率</td> <td>27.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※第3期中期計画の期間において、経過年度の平均値で評定 (関連：第3-2-(1))</p>	項目	R4目標	採択率	27.0	<p>・科学研究費補助金採択率(%)</p> <table border="1" data-bbox="1117 292 1514 371"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R4実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>採択率</td> <td>23.4</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R4実績	採択率	23.4			
項目	現状 (H25 - H30年度平均)	目標																	
採択率	24.9	27																	
項目	R4目標																		
採択率	27.0																		
項目	R4実績																		
採択率	23.4																		

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 4 研究に関する目標を達成するためとるべき措置
 (2) 多様な研究活動の展開に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見																					
<p>[26] 企業・団体等との連携研究により、産業界の発展に寄与する研究を充実する。併せて、共同研究費等の獲得に向けた取組を行う。</p> <p>成果指標 ・地域の企業・団体等との共同研究費・受託研究費・教育研究奨励金の獲得状況(合計)(件、千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H24-H29年度平均)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>109.5</td> <td>130</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>86,600</td> <td>100,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>※件数又は金額を到達基準とする</p>	項目	現状(H24-H29年度平均)	目標	件数	109.5	130	金額	86,600	100,000	<p>[26] アクティブ・ラボ、各種セミナー等への参加状況及びアンケート結果、共同研究等の獲得状況の分析から、教員の共同研究等の獲得を促進するための施策を引き続き検討し、実施する。コロナ禍においても積極的に共同研究等の成立に向けた活動を展開する。</p> <p>成果指標 ・地域の企業・団体等との共同研究費・受託研究費・教育研究奨励金の獲得状況(合計)(件、千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R4目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>120</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>90,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>※件数又は金額を到達基準とする</p>	項目	R4目標	件数	120	金額	90,000	<p>[26] 共同研究獲得に繋げるため、教員のアクティブ・ラボへの参加を促し、105件(訪問31件、来学51件、オンライン23件)と前年度比148%に増加した。共同研究等は件数が108件と前年度比130%、金額が69,211千円と前年度比154%と、コロナ禍からの回復傾向が見られた。</p> <p>成果指標 ・地域の企業・団体等との共同研究費・受託研究費・教育研究奨励金の獲得状況(合計)(件、千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R4実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>108</td> </tr> <tr> <td>金額</td> <td>69,211</td> </tr> </tbody> </table> <p>[評価時の観点] アクティブ・ラボによる共同研究獲得の促進を図ったが、件数・金額ともに目標には届かなかった。</p>	項目	R4実績	件数	108	金額	69,211	2	2	引き続き、アクティブ・ラボへの参加を促進し、共同研究費等の獲得につなげてほしい。
項目	現状(H24-H29年度平均)	目標																								
件数	109.5	130																								
金額	86,600	100,000																								
項目	R4目標																									
件数	120																									
金額	90,000																									
項目	R4実績																									
件数	108																									
金額	69,211																									

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見								
<p>[27] 本学の専門分野の特性を生かして、学部を越えた分野連携による新規性の高い研究開発を積極的に推進する。</p> <p>(参考指標) ・学部を越えた分野連携による研究状況(件数、参加人数、成果等)</p>	<p>[27] 学内競争的資金制度による学部を越えた研究分野の連携の有効性の評価検証を行い、産業振興・地域ニーズを踏まえた新規性の高い研究推進にフィードバックさせる。</p>	<p>[27] 学内競争的資金制度の分析・評価を継続するとともに、研究分野連携の活性化・効率化への有効性を可視化する仕組みを検討し、特に重点領域研究と若手研究者の活性化に取り組んだ。</p> <p>(参考指標) ・学部を越えた分野連携による研究状況 重点領域研究：7件</p> <table border="1" data-bbox="1144 580 1630 1107"> <thead> <tr> <th>研究課題名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学士課程教育における看護学の学びの統合のための教授方法開発</td> </tr> <tr> <td>重度心身障害児(者)における食事支援としての米麹甘酒の有効性</td> </tr> <tr> <td>「雑草型」幼児教育人材の育成を見据えた地域・国際参加・協働型アクションリサーチ</td> </tr> <tr> <td>コーポラティブ・マシン・インテリジェンスを用いた自己と他者のウェルビーイングの研究</td> </tr> <tr> <td>身体性メディアを活用したインタラクティブ支援技術</td> </tr> <tr> <td>地域連携を基盤とした健康長寿の実現を鑑みた包括的介入試験</td> </tr> <tr> <td>機械式パワーアシストシステムを有する車椅子の快適性の向上と実用化への取り組み</td> </tr> </tbody> </table>	研究課題名	学士課程教育における看護学の学びの統合のための教授方法開発	重度心身障害児(者)における食事支援としての米麹甘酒の有効性	「雑草型」幼児教育人材の育成を見据えた地域・国際参加・協働型アクションリサーチ	コーポラティブ・マシン・インテリジェンスを用いた自己と他者のウェルビーイングの研究	身体性メディアを活用したインタラクティブ支援技術	地域連携を基盤とした健康長寿の実現を鑑みた包括的介入試験	機械式パワーアシストシステムを有する車椅子の快適性の向上と実用化への取り組み	3	3	
研究課題名													
学士課程教育における看護学の学びの統合のための教授方法開発													
重度心身障害児(者)における食事支援としての米麹甘酒の有効性													
「雑草型」幼児教育人材の育成を見据えた地域・国際参加・協働型アクションリサーチ													
コーポラティブ・マシン・インテリジェンスを用いた自己と他者のウェルビーイングの研究													
身体性メディアを活用したインタラクティブ支援技術													
地域連携を基盤とした健康長寿の実現を鑑みた包括的介入試験													
機械式パワーアシストシステムを有する車椅子の快適性の向上と実用化への取り組み													

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

4 研究に関する目標を達成するためとるべき措置

(3) 研究成果の還元に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
<p>[28] 地域の活性化や産業振興に貢献するため、地域ニーズの把握に努め、本学の専門分野における知的資源の提供を行うことにより、地域社会が抱える課題への提言・助言を行うシンクタンクの役割を果たす。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域課題への研究成果の還元、政策課題への提言・助言の実績 ・OPUフォーラム等における県内企業成果展示件数 ・自治体等からの委員の委嘱件数 ・自治体等への講師派遣件数 	<p>[28] 業種説明会、岡山県立大学協力会からの寄付講座等により地元企業の魅力を学生に周知する。また、岡山県立大学協力会と連携し、交流会・講習会等を継続して実施する。</p>	<p>[28] OPUフォーラムを開催し、本学や県内企業・団体の研究成果を発信するとともに、地域の企業・団体・市民との交流を促進した。 岡山県寄附講座「おかやま組込みシステム・AI講座」を開催、県内企業等から32名の受講があり、企業の技術開発力向上を図った。 岡山県立大学協力会の業種説明会、システムエンジニアリング岡山の合同企業説明会、協力会の寄附講座「技術者と社会」等により、学生に県内企業や業界の魅力を伝え、県内企業への定着を促進した。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OPUフォーラムにおける県内企業成果展示17件 ・自治体等からの委員の委嘱件数 岡山県：54件 市町村：67件(うち県内62件) 国・独立行政法人：7件 ・自治体等への講師派遣件数 岡山県：11件 市町村：19件(うち県内13件) 国・独立行政法人：3件 	3	3	

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

5 地域貢献に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 地域連携教育の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見																														
<p>[再掲：4] 地域に愛着を持ち、その発展に寄与する意欲・能力を育むため、COC+の一環として設置した副専攻「岡山創生学」の成果を継承し、さらなる地域連携教育の充実・改善を図る。</p> <p>成果指標 ・就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合(%) (再掲：4)</p> <table border="1" data-bbox="123 756 557 861"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H29年度卒)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>51.8</td> <td>55.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考指標) ・地域連携教育の実施状況(地域の学外関係者による講座数を含む。) (再掲：4)</p>	項目	現状(H29年度卒)	目標	全学部平均	51.8	55.0	<p>[再掲：4] 副専攻「吉備の杜」の岡山創生学課程と吉備の杜クリエイター課程の相互で密に連携しながら、副専攻科目の実施と検証を行い社会連携教育の充実を行う。また、新型コロナウイルスの感染拡大等の社会情勢の変化に柔軟に対応し、円滑に授業を実施するとともに、改善を図る。 地域創生推進士の新規認定要件として制度化した準正課活動の拡充に努める。</p> <p>成果指標 ・就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合(%) (再掲：4)</p> <table border="1" data-bbox="609 948 1037 1027"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R4目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>54.0</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R4目標	全学部平均	54.0	<p>[再掲：4] 副専攻「吉備の杜」(岡山創生学課程、吉備の杜クリエイター課程)を、オンラインと対面を併用しながら、全ての科目を開講し、地域創生推進士23名、地域創生クリエイター11名を認定した。 説明会や広報物により学内外で副専攻の教育理念の理解の促進、履修者の増加を図り、吉備の杜クリエイター課程の学外履修者24名を受け入れた。</p> <p>成果指標 ・就職した学生のうち、県内の事業所に就職した学生の割合(%)</p> <table border="1" data-bbox="1106 916 1541 995"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R4実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全学部平均</td> <td>48.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考指標) ・地域連携教育の実施状況 ・副専攻科目の単位修得者数(人)</p> <table border="1" data-bbox="1122 1110 1610 1410"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>社会連携要論</td> <td>336</td> </tr> <tr> <td>地域創生演習</td> <td>102</td> </tr> <tr> <td>地域資源論</td> <td>381</td> </tr> <tr> <td>地域創生実践論</td> <td>54</td> </tr> <tr> <td>社会を生きる力を学ぶ</td> <td>66</td> </tr> <tr> <td>地域インターンシップ</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>地方自治論Q</td> <td>36</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R4実績	全学部平均	48.0	科目名	人数	社会連携要論	336	地域創生演習	102	地域資源論	381	地域創生実践論	54	社会を生きる力を学ぶ	66	地域インターンシップ	19	地方自治論Q	36	2	2	副専攻「吉備の杜」の教育内容の充実や学内外への周知を進め、県内就職率の向上につなげてほしい。
項目	現状(H29年度卒)	目標																																	
全学部平均	51.8	55.0																																	
項目	R4目標																																		
全学部平均	54.0																																		
項目	R4実績																																		
全学部平均	48.0																																		
科目名	人数																																		
社会連携要論	336																																		
地域創生演習	102																																		
地域資源論	381																																		
地域創生実践論	54																																		
社会を生きる力を学ぶ	66																																		
地域インターンシップ	19																																		
地方自治論Q	36																																		

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見																																
		<table border="1" data-bbox="1120 256 1610 863"> <tr><td>エンジニアリング演習</td><td>23</td></tr> <tr><td>地域デザイン演習</td><td>5</td></tr> <tr><td>フードビジネス学</td><td>29</td></tr> <tr><td>チームガバナビリティ演習</td><td>22</td></tr> <tr><td>地域保健福祉演習</td><td>8</td></tr> <tr><td>未来型プロジェクト<食></td><td>11</td></tr> <tr><td>組込みシステム</td><td>90</td></tr> <tr><td>技術者と社会</td><td>51</td></tr> <tr><td>セキュリティ総論</td><td>69</td></tr> <tr><td>知的制御システム</td><td>45</td></tr> <tr><td>未来型プロジェクト<ICT></td><td>3</td></tr> <tr><td>森林生態学・地盤工学</td><td>12</td></tr> <tr><td>森林・木材学演習</td><td>18</td></tr> <tr><td>木構造学・木構造デザイン</td><td>14</td></tr> <tr><td>環境デザイン演習</td><td>11</td></tr> <tr><td>未来型プロジェクト<森と木></td><td>3</td></tr> </table> <p data-bbox="1093 884 1637 1011">[評価時の観点] 副専攻「吉備の杜」の教育内容の充実、学内外への周知は進んでいるものの、成果指標である県内就職率は目標に届かなかった。</p>	エンジニアリング演習	23	地域デザイン演習	5	フードビジネス学	29	チームガバナビリティ演習	22	地域保健福祉演習	8	未来型プロジェクト<食>	11	組込みシステム	90	技術者と社会	51	セキュリティ総論	69	知的制御システム	45	未来型プロジェクト<ICT>	3	森林生態学・地盤工学	12	森林・木材学演習	18	木構造学・木構造デザイン	14	環境デザイン演習	11	未来型プロジェクト<森と木>	3			
エンジニアリング演習	23																																				
地域デザイン演習	5																																				
フードビジネス学	29																																				
チームガバナビリティ演習	22																																				
地域保健福祉演習	8																																				
未来型プロジェクト<食>	11																																				
組込みシステム	90																																				
技術者と社会	51																																				
セキュリティ総論	69																																				
知的制御システム	45																																				
未来型プロジェクト<ICT>	3																																				
森林生態学・地盤工学	12																																				
森林・木材学演習	18																																				
木構造学・木構造デザイン	14																																				
環境デザイン演習	11																																				
未来型プロジェクト<森と木>	3																																				
<p data-bbox="107 1038 562 1198">[29] SDGs（持続可能な開発目標）の理念を意識した地域連携教育に取り組み、理念の普及と社会貢献活動を推進する。</p> <p data-bbox="107 1230 562 1326">(参考指標) ・地域住民等を対象とした各種講演・講座等の開催状況(趣旨・回数・参加者数)</p>	<p data-bbox="595 1038 1050 1326">[29] 副専攻「吉備の杜」や大学コンソーシアム岡山と連携し、県内自治体や企業等とともに地域連携教育や人材育成に取り組むなど、SDGsの理念に資する新たな取組を推進する。また、コロナ禍において採用した開催枠組みや開催予定を利活用し、新たなニーズの掘り起こしに努める。</p>	<p data-bbox="1086 1038 1637 1422">[29] 副専攻「岡山創生学課程」「吉備の杜クリエイター課程」「吉備の杜プロデューサー課程」を実施し、地域連携教育を充実させるとともに、インターンシップから地域連携事業に繋がるなど、教育による連携から事業に発展する成果があった。 大学コンソーシアム岡山主催の「日ようび子ども大学」に出展し、学生を中心に研究シーズを活かした社会貢献に取り組んだ。 コロナ禍で定着したオンラインを活用し、遠方との連携の効率化がなされた。</p>	3	3																																	

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 5 地域貢献に関する目標を達成するためとるべき措置
 (2) 地域貢献活動の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
<p>[30] 本学の教育研究資源を生かして地域の課題解決に取り組むため、地域との連携による協働事業を推進するとともに、各種講演・講座やワークショップ等のプログラムの充実を図る。</p> <p>(参考指標) ・地域住民等を対象とした各種講演・講座等の開催状況(趣旨・回数・参加者数) (再掲：29)</p>	<p>[30] 地域住民等を対象とした地方創生に資する各種講演・講座等を引き続き実施するとともに、地方創生SDGs(持続可能なまちづくりや地域活性化)に資する地域連携活動を推進する。</p>	<p>[30] 健康、運動、食育、まちづくりなど16件の地域連携事業を実施し、自治体や関係団体との協働で地域の活性化に取り組んだ。 「県大・そうじゃ子育てカレッジ」は、6回の協働授業、2回の保育講座、1回の音楽会を実施、延べ487組の親子が参加し、学生も参加する親子交流の場として、教育の充実を図りつつ地域の子育てを支援した。 離島や中山間地域活性化に資する事業に関する相談が増え、新規連携事業が増加した。岡山県と連携した「地域に飛び出せ大学生! おかやま元気! 集落研究・交流事業」を2地域で実施した。</p>	3	3	

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
6 グローバル化に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
<p>[31] 国際交流の内容を精査し、今後に向けた国際交流協定校等との交流のあり方について検討を進め、必要に応じて見直すなどにより、国際交流協定校等との教育研究における交流の充実を図る。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際交流協定締結校との交流実績(教育・研究) (上記実績を踏まえた)国際交流協定校等との交流内容の充実に向けた検討・見直し状況 	<p>[31] 各学部・研究科におけるグローバル活動を教育・研究の双方から推進するための支援体制を整備し、グローバル活動の着実な取組を継続支援する。</p>	<p>[31] コロナ禍で開始したオンラインでのグローバルプログラムを継続しつつ、訪問や受入による対面のプログラムも再開した。 海外の大学との交流協定方針の策定とコーディネーターの配置、留学相談窓口の設置及び面談シートの作成等、今後の交流発展や留学支援に向けた体制整備を進めた。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際交流協定締結校等との交流実績 <ul style="list-style-type: none"> 韓国 又松大学 国際学術交流会開催(オンライン) マレーシア マラッカ技術大学 海外インターンシップ開講(マレーシア) ドイツ ハノーバー応用科学芸術大学 国際ワークショップ開催(日本) 国立台南芸術大学 交流展示会開催(台湾・日本) 	3	3	
<p>[32] グローバル化に対応したコミュニケーション能力を向上させるため、英語による講義・演習の充実等、主に実践的な英語力の修得を目指す教育を推進する。</p> <p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> TOEIC平均点の1年次から2年次への伸び幅(点) 	<p>[32] 令和3年度から導入した1年生対象のAdvanced classの評価を行い、より効果的に運用する。また、e-learning教材および本学オリジナル教材の評価と見直しを行う。</p> <p>成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> TOEIC平均点の1年次から2年次への伸び幅(点) 	<p>[32] 教材の見直しやAdvanced classの運用等による英語教育の充実を図り、令和3年度入学生のTOEIC L&R IPテスト平均点は入学時から2年次で35.30点上昇、その中の入学時550点以上取得者の平均点は12.69点の上昇となった。 対面授業への移行によりAdvanced classに対する学生の満足度も改善し、1年次から2年次に継続して受講を希望する学生が91%と、前年度の45%から大幅に増加した。</p>	4	4	教材の見直しやAdvanced classの運用等による英語教育の充実を図り、学生の英語力、満足度ともに向上しており、評価できる。

中期計画			年度計画		実績状況		法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見																		
<table border="1"> <tr> <td>項目</td> <td>現状(H28入学生の1年次→2年次)</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>伸び幅</td> <td>0.42</td> <td>5.0</td> </tr> </table> <p>※第3期中期計画の期間において経過年度の平均値で評定 (2年目以降にTOEIC上位得点者数等に関する指標を設定)</p> <p>(参考指標) ・英語による講義・演習の実施状況</p>	項目	現状(H28入学生の1年次→2年次)	目標	伸び幅	0.42	5.0	<table border="1"> <tr> <td>項目</td> <td>R4目標</td> </tr> <tr> <td>伸び幅</td> <td>4.0</td> </tr> </table> <p>・TOEIC 550点以上取得学生の1年次から2年次への伸び幅(点)</p> <table border="1"> <tr> <td>項目</td> <td>R4目標</td> </tr> <tr> <td>伸び幅</td> <td>1.0</td> </tr> </table>	項目	R4目標	伸び幅	4.0	項目	R4目標	伸び幅	1.0	<p>成果指標</p> <p>・TOEIC平均点の1年次から2年次への伸び幅(点)</p> <table border="1"> <tr> <td>項目</td> <td>R4実績</td> </tr> <tr> <td>伸び幅</td> <td>35.30</td> </tr> </table> <p>・TOEIC 550点以上取得学生の1年次から2年次への伸び幅(点)</p> <table border="1"> <tr> <td>項目</td> <td>R4実績</td> </tr> <tr> <td>伸び幅</td> <td>12.69</td> </tr> </table> <p>[評価時の観点] TOEIC L&R IPテスト平均点の1年次から2年次への伸び幅が、全体、上位得点者ともに目標を達成し、Advanced classの内容、学生の満足度も向上している。</p>	項目	R4実績	伸び幅	35.30	項目	R4実績	伸び幅	12.69			
項目	現状(H28入学生の1年次→2年次)	目標																									
伸び幅	0.42	5.0																									
項目	R4目標																										
伸び幅	4.0																										
項目	R4目標																										
伸び幅	1.0																										
項目	R4実績																										
伸び幅	35.30																										
項目	R4実績																										
伸び幅	12.69																										

第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置

1 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 機動的かつ効率的な運営体制の構築に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
<p>[33] 法人運営に関する共有意識を高めることにより、教職員のより一層の運営への参加を促すとともに、理事長(学長)のリーダーシップの下、内部統制システムの整備・強化により、業務の適正な執行を行う。</p> <p>(参考指標) ・法人運営に関する情報等の公表(及び共有意識の向上に寄与する取組の実施)状況</p>	<p>[33] 理事長(学長)のリーダーシップの下、教職一体となった執行部による大学運営を引き続き推進していく。また、内部統制システムの維持強化のため、各業務におけるリスクの識別及び分析を行う。</p>	<p>[33] 内部統制システム運用の一環として、事務局物品購入業務、附属図書館資産管理業務に関してリスクの洗い出しを行い、モニタリング(内部監査)を実施し、良好な執行体制が確認できた。</p>	3	3	
<p>[34] 全学の運営組織体制を経営的な視点を持って不断に検証し、見直すことにより効率的かつ効果的に大学を運営する。</p> <p>(参考指標) ・運営組織体制の見直し状況</p>	<p>[34] 組織体制等の見直しに伴う人件費等、収支に大きな影響を及ぼす案件については、経営的視点で検証し見直す。</p>	<p>[34] 令和4年度補正予算、令和5年度当初予算の状況を踏まえ、第3期中期計画期間における収支見通しを随時更新し、持続可能で安定的な財政運営が行えるよう財務状況の検証を行った。</p>	3	3	
<p>[35] 教職相互が大学運営上の目標や課題を共有し、教員と職員との協働性の向上を図りながら、課題解決のための教職協働の仕組みづくりと運用を進める。</p> <p>(参考指標) ・学内外の研修への参加状況</p>	<p>[35] 事務局職員として必要な基礎や専門的知識の習得のため、県や公大協が実施する研修への参加を促すとともに、その他学内で受講できる有益な研修の機会を提供することで、職員の能力及び資質の向上を図る。また、学内で実施するSD研修等への積極的な参加を促し、教職協働への意識の向上を図る。</p>	<p>[35] 学内研修については、内容や場面に応じて適切な実施形式を選択しながら、4回実施した(延べ305人受講)。また、岡山県主催のプレステージ研修及び公大協主催研修に延べ40人が受講した。</p> <p>(参考指標) ・学内外の研修への参加状況 学内研修 新規教員・事務職員研修：18人 ハラスメント全体研修：189人</p>	3	3	

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
		ハラスメント相談員向け研修：10人 接遇・クレーム対応研修会：88人 岡山県自治研修：11人 公大協研修：28人 NPO法人学生文化創造研究会：1人			
<p>[36]</p> <p>法人職員に求められる能力開発のため、人材育成方針を策定するとともに、専門性・企画立案能力等の向上を目指した個人の業務に関する目標管理・評価手法の見直しを行う。</p> <p>また、法人の将来を担う優秀な人材確保のため、他大学等での実務経験や専門的な資格を有する者の採用など、長期的な運営体制の構築を念頭に置いた計画的な職員採用に取り組む。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 法人職員の人材育成方針の作成と推進状況 	<p>[36]</p> <p>法人職員の人材育成方針を踏まえ、岡山県立大学職員研修計画に基づく研修を実施する。また、事務局職員が積極的に大学運営に参画できるように、人件費抑制の観点も踏まえながら、各センターや事務局の組織体制の見直しを検討する。</p>	<p>[36]</p> <p>人材育成方針や研修計画に基づく研修を実施するとともに、人事評価実施要綱等を活用した人事評価により、優秀な職員の育成と業務の効率化に向けた取組を進めた。</p>	3	3	
<p>[37]</p> <p>学内の情報伝達や情報共有を、ICT環境を活用して機動的かつ効率的に行うことにより、意思決定や業務改善の迅速化を図る。</p> <p>(参考指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT環境の整備・活用状況(情報セキュリティ対策の整備状況を含む。) 	<p>[37]</p> <p>学内ネットワークシステム更新を行い、各システムの運用実態を見極めたうえで、情報発信・共有についてのルールの見直しについて検討する。</p>	<p>[37]</p> <p>情報発信・共有ルールの見直しの前提となる学内ネットワークの更新について、分割導入・更新を進め、一部の更新を完了することができたが、入札不調、納期延長により未更新、更新作業中のもも残存しており、全体としては部分的な更新完了にとどまった。</p> <p>[評価時の観点]</p> <p>学内ネットワークシステムの更新を進めたものの、完了は次年度へ持ち越しとなり、更新後のネットワークを前提とした情報発信・共有ルールの見直しには至っていない。</p>	2	2	<p>学内ネットワークシステムの更新を早期に完了させ、情報発信・共有ルールの見直しにも取り組んでほしい。</p>

第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置

1 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

(2) 地域に開かれた大学づくりの推進に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
<p>[38] 市町村や県内企業等との連携を深めるとともに、設立団体である県との間で、地域課題の共有及び大学の発展と課題解決に向けた連携方策や県の重点施策に対応した大学の活用方策等を協議・調整する連絡協議会の設置等、法人の業務運営と県行政との連携を確保する。</p> <p>(参考指標) ・COC+の活動状況 ・県との連携状況及び課題共有・検討体制の構築状況</p>	<p>[38] 「吉備の杜」創造戦略プロジェクトを中心に、大学コンソーシアム岡山、市町村及び企業等との連携、課題解決等に引き続き取り組むとともに、県施策推進連絡会議を活用する等、県と本学の連携、課題共有を推進する。</p>	<p>[38] 副専攻「吉備の杜」を開講し、クリエイター課程及びプロデューサー課程で、他大学23名、社会人83名を含む409名が履修し、教育を通じた学外との連携を推進した。 県施策推進連絡会議で教員のシーズを説明し、共同研究等に向けた取組を促した。 県の要望(SDGsを念頭に置いたテーマ)と本学のシーズとのマッチングを推進するためのスタディーミーティングを3件実施した。 地元市と連携した親子で学ぶプログラミング教室など、地域住民を対象とした取組を行った。</p>	3	3	
<p>[39] UI(ユニバーシティ・アイデンティティ)戦略本部を設置し、本学の特色を生かした活動方針等を示したUI戦略を策定・推進することによりブランド力向上を図り、地(知)の拠点として地域に開かれた大学づくりを積極的に進める。</p> <p>(参考指標) ・UI戦略の策定・推進状況</p>	<p>[39] 今後の大学づくりのための有効な方策について検討を進めるとともに、開学30周年に向けた具体的な取組を推進する。</p>	<p>[39] UI戦略室を設置し、本学の現状の整理を行うとともに、各種コンテンツの検討の中から本学のUIの要素を積み上げつつ確立していく方針とした。 PR動画、キャンパスソング、オリジナルクッキー等、開学30周年に向けたコンテンツ、グッズの制作を進めた。</p>	3	3	
<p>[40] 雇用形態の多様化など社会変化に対応するため、社会人の学び直しのためのリカレント教育を推進し、内容の充実を図る。</p>	<p>[40] 社会のニーズを調査し、副専攻「吉備の杜」でのリカレント教育を継続するとともに、それ以外の授業科目によるリカレント教育プログラムの提供を検討する。</p>	<p>[40] 副専攻「吉備の杜」の学外履修者を積極的に募集し、県内18の自治体・企業から83名(延べ121名)の学外履修者があった。 令和5年度から研究科での開講科目を9科目から16科目に増強する等、リカレント教育の充実を進めた。</p>	3	3	

第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置

2 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 自己収入の増加に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見														
<p>[再掲：26] 企業・団体等との連携研究により、産業界の発展に寄与する研究交流を充実するため、共同研究費等の獲得に向けた支援を行う。</p> <p>成果指標 ・地域の企業・団体等との共同研究費・受託研究費・教育研究奨励金の獲得状況(合計)(千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H24-H29年度平均)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金額</td> <td>86,600</td> <td>100,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>※金額を到達基準とする</p>	項目	現状(H24-H29年度平均)	目標	金額	86,600	100,000	<p>[再掲：26] アクティブ・ラボ、各種セミナー等への参加状況及びアンケート結果、共同研究等の獲得状況の分析から、教員の共同研究等の獲得を促進するための施策を引き続き検討し、実施する。 コロナ禍においても積極的に共同研究等の成立に向けた活動を展開する。</p> <p>成果指標 ・地域の企業・団体等との共同研究費・受託研究費・教育研究奨励金の獲得状況(合計)(千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R4目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金額</td> <td>90,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>※金額を到達基準とする</p>	項目	R4目標	金額	90,000	<p>[再掲：26] 共同研究獲得に繋げるため、教員のアクティブ・ラボへの参加を促し、105件(訪問31件、来学51件、オンライン23件)と前年度比148%に増加した。共同研究等は件数が108件と前年度比130%、金額が69,211千円と前年度比154%と、コロナ禍からの回復傾向が見られた。</p> <p>成果指標 ・地域の企業・団体等との共同研究費・受託研究費・教育研究奨励金の獲得状況(合計)(千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R4実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金額</td> <td>69,211</td> </tr> </tbody> </table> <p>[評価時の観点] アクティブ・ラボによる共同研究の促進を図ったが、獲得金額が目標には届かなかった。</p>	項目	R4実績	金額	69,211	2	2	引き続き、アクティブ・ラボへの参加を促進し、共同研究費等の獲得につなげてほしい。
項目	現状(H24-H29年度平均)	目標																	
金額	86,600	100,000																	
項目	R4目標																		
金額	90,000																		
項目	R4実績																		
金額	69,211																		
<p>[41] 円滑かつ発展的な大学運営のために、外部研究資金等により自己収入増を図る。</p> <p>成果指標 ・科学研究費補助金獲得額(千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H24-H29年度平均)</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金額</td> <td>84,111</td> <td>85,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>※第3期中期計画の期間において、経過年度の平均値で評定</p>	項目	現状(H24-H29年度平均)	目標	金額	84,111	85,000	<p>[41] 科学研究費の申請書作成勉強会、提出前検討会等の申請支援活動の検証・強化を行い、獲得額の増加を図る。</p> <p>成果指標 ・科学研究費補助金獲得額(千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R4目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金額</td> <td>83,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>※第3期中期計画の期間において、経過年度の平均値で評定</p>	項目	R4目標	金額	83,000	<p>[41] 科学研究費について、外部講師を招いた申請支援講演会、学内での申請勉強会と提出前検討会等、外部業者による添削等を行い、採択率向上に向けた支援を行った。(採択率23.4%、64件)</p> <p>成果指標 ・科学研究費補助金獲得額(千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R4実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金額</td> <td>79,118</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R4実績	金額	79,118	2	2	
項目	現状(H24-H29年度平均)	目標																	
金額	84,111	85,000																	
項目	R4目標																		
金額	83,000																		
項目	R4実績																		
金額	79,118																		

中期計画	年度計画	実績状況	法人 自己 評価	委員会 評価	委員会参考意見
		[評価時の観点] 科学研究費獲得に向けた支援を行ったが、採択率は前年並み、獲得額は79,118千円と低調であった。			

第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置
 2 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置
 (2) 運営経費の見直しに関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
<p>[42] 各種事業について、費用対効果を踏まえ、縮小・廃止を含めた事業見直しを実施するとともに、重点及び新規事業についても、実施後の効果検証を行い、効果的・効率的な実施に努める。</p> <p>(参考指標) ・事業の見直し状況(運営体制の改善等を含む。)及び重点・新規事業の効果検証の状況</p>	<p>[42] 各種事業について、必要性、実績、費用対効果等の検証を行い、縮小・廃止を含めた事業見直しを行う。</p>	<p>[42] 令和5年度当初予算編成にあたって、固定的経費等を除き要求上限率(90%)を設けた。その上で、効果や効率性を踏まえ、選択と集中による歳出の重点化を推進することにより教育研究等の質の向上や地域貢献の充実を図った。</p>	3	3	

第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置
 3 自己点検及び評価に関する目標を達成するためとるべき措置
 (1) 評価の充実に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
<p>[43] 教育研究の質の充実を図るとともに、教育研究活動の透明性を高めるため、大学機関別認証評価を見据えた教育研究に関する内部質保証体制を確立し、適切かつ効率的な自己点検・評価を行う。</p> <p>(参考指標) ・大学機関別認証評価に係る自己評価書の作成・公表</p>	<p>[43] アセスメントプランに基づき令和3年度のデータ分析・公表、改善策の立案を進めるとともに、認証評価に向けた自己評価書の作成を行う。</p>	<p>[43] アセスメントプランに従って、教学IRデータについて自己点検・評価を実施、発見された課題の改善案を作成し、関係部局に通達する内部質保証体制を確立した。これらを実際の分析結果とそれに基づく具体的な改善策とともに、令和5年度に受審予定の大学機関別認証評価の点検評価ポートフォリオに反映させた。</p>	3	3	
<p>[44] 現行及び平成33(2021)年度以降のディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)、カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)及びアドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)の実施状況に関する指標に対応する組織的な教育の自己点検・評価を着実に実施するため、IR(インスティテューショナル・リサーチ)活動の充実を図る。</p>	<p>[44] アセスメントプランに従った3ポリシーの達成度評価を行い、IRデータを分析して改善に結び付けるとともに、分析結果の公表を進める。 オンライン授業の学修成果の向上に向けて、課題を抽出するアンケートの実施と分析を継続する。</p>	<p>[44] 内部質保証推進体制の確立により、IR分析による3ポリシーの検証が可能となり、調査方法や評価方法、カリキュラム等の改善を進めることができた。また、これらの実績を教育年報2022へ反映させた。</p>	3	3	
<p>[45] 教員の教育・研究・社会貢献・管理運営の各業務に対する意欲・資質向上のため、教員の個人評価の運用に当たっては、評価後の効果を見極めながら、より効果的な評価制度となるよう指標等の不断の見直しを行う。</p> <p>(参考指標) ・教員評価の結果公表</p>	<p>[45] 教員の個人評価制度について、改善に向けた具体的な検討を進め、早期の運用を目指す。</p>	<p>[45] 教員個人評価について、教員からの意見集約や改善方針を踏まえ、学部学科や専門分野、職名等の実情に沿った評価点等の変更、評価者等の意思疎通に向けた面談を行うなど、評価制度の見直しを行った。</p> <p>[評価時の観点] これまで進めてきた評価方法見直しの方針等を踏まえ、より実情に沿った評価手法へと改善することができた。</p>	4	4	<p>教員の意欲や資質向上のため、より実情に沿った評価方法へ見直しを行っており、評価できる。</p>

第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置
 3 自己点検及び評価に関する目標を達成するためとるべき措置
 (2) 情報公開の推進に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
[46] 教育研究活動や業務運営全般に係る学内審議会・委員会の審議結果に加え、審議過程の情報を積極的に公開する。	[46] 令和4年度の役員会、教育研究審議会、経営審議会、各委員会等に係る議事録を審議過程の情報も含め公表する。	[46] 教育研究審議会については11回分、役員会については3回分及び経営審議会については4回分を、審議過程の情報も含め公表した。	3	3	
[47] 地(知)の拠点として地域社会に開かれた大学づくりのため策定するUI戦略に基づき、広報体制を強化するとともに、県のみならず各種広報媒体への掲載協力を得るなど、各種広報ツールを活用し、本学の魅力について、より一層周知を図る。	[47] リニューアルした大学ウェブサイトを中心に、各種広報ツールを連動させ、様々なステークホルダーを意識した戦略的な広報活動を推進する。また、デジタルツールによる広報のさらなる強化に取り組む。	[47] 大学ウェブサイトをリニューアルするとともに、各学部学科の情報発信を促進し、ニュースの件数が300件程度と前年度の150件程度から大幅に増加した。 開学30周年に向けたPR動画や記念誌の制作等、周年事業を機に広くPRを行うための準備を進めた。	3	3	

- 第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置
 4 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置
 (1) 施設及び設備の適切な維持管理に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
[48] 施設の老朽化等の安全管理に関する課題解決のため、必要な改修・修繕を実施するとともに、学生のみならず教職員が安心して学び働ける快適な環境を確保するため、教室・執務室をはじめ、空調や衛生設備の充実、運用時間等の見直しを図る。	[48] 平成30年度に定めた中期修繕計画（令和元年度～令和9年度）に基づき、設備改修（高圧受変電設備、給排水・排水処理施設、外壁タイル等点検補修等）を実施するとともに適宜、計画の見直しを行う。	[48] 中期修繕計画に基づき、高圧受変電設備等3件の設備改修を行った。 また、岡山県と調整を行い、令和5年度の大規模修繕の補助金5件が内定した。	3	3	

第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置
 4 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置
 (2) 安全・安心な教育研究環境の確保に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
<p>[49] 学内全体での危機管理・安全衛生の強化並びに人権擁護及び法令遵守の意識の共有を図り、研究者倫理遵守や各種ハラスメントなどの人権侵害防止等に努めるとともに、不測の事態に適切に対応できるよう責任体制の明確化と想定訓練の実施などに組織的に取り組む。</p> <p>成果指標 ・危機管理対応マニュアルの作成・試行運用の状況</p>	<p>[49] 危機管理ガイドラインに沿った危機管理対応マニュアルを作成し、試行する。</p> <p>成果指標 ・危機管理対応マニュアルの作成・試行運用の状況</p>	<p>[49] 教職員や学生の安全強化のため、全学的に取り組み、「新型コロナウイルス感染症対応マニュアル」の活用等を行った。各学部において授業や実験時に活用する安全の手引きを作成した。</p> <p>成果指標 ・危機管理対応マニュアルの作成・試行運用の状況 新型コロナウイルス感染症対応マニュアルの周知、活用、改正 各学部安全の手引きの完成</p>	3	3	
<p>[50] 災害や事故等に適切かつ迅速に対応することができるよう、学生や教職員に対する教育や研修・訓練を推進するとともに、安全管理及び災害等を想定した防災体制の充実を図る。</p> <p>成果指標 ・災害対応マニュアルの作成並びに学生及び教職員への周知</p> <p>(参考指標) ・防災に関する研修・訓練の実施状況</p>	<p>[50] 危機管理ガイドラインに沿った災害対応マニュアルを作成し、学生や教職員への周知を図るとともに見直しを行う。</p> <p>成果指標 ・災害対応マニュアルの作成</p>	<p>[50] 災害や事故等に的確に対応できるよう、学生、教職員等参加の防火・防災訓練を継続して実施した。</p> <p>成果指標 ・災害対応マニュアルの作成 自然災害(地震、風水害、火災)対応マニュアル素案の成案化</p> <p>(参考指標) ・防災に関する研修・訓練の実施状況 大地震及びその後の火災を想定した防火・防災訓練：1回</p>	3	3	

第4 予算、収支計画及び資金計画

1 予算

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差 額 (決算-予算)
収入			
運営費交付金	2, 0 9 7	2, 1 5 8	6 1
補助金	1 7 9	1 9 8	1 9
自己収入	1, 0 5 0	1, 0 4 2	△ 8
授業料及び入学検定料収入	1, 0 1 7	1, 0 0 1	△ 1 6
雑収入	3 3	4 1	8
受託研究等収入及び寄附金収入	1 0 2	8 3	△ 1 9
目的積立金取崩	1 2 9	-	△ 1 2 9
計	3, 5 5 7	3, 4 8 1	△ 7 6
支出			
教育研究経費	8 1 1	7 6 1	△ 5 0
人件費	2, 2 3 2	2, 1 2 5	△ 1 0 7
一般管理費	3 5 4	3 5 7	3
受託研究等経費及び寄附金事業費等	1 0 2	7 6	△ 2 6
施設費	5 8	5 8	0
計	3, 5 5 7	3, 3 7 7	△ 1 8 0

2 収支計画

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差 額 (決算-予算)
費用の部	3, 6 2 2	3, 5 1 9	△ 1 0 3
経常費用	3, 6 2 2	3, 5 1 9	△ 1 0 3
業務費	3, 2 2 3	3, 0 7 3	△ 1 5 0
教育研究経費	8 2 6	8 0 1	△ 2 5
受託研究等経費	7 5	4 3	△ 3 2
役員人件費	3 1	3 1	0
教員人件費	1, 7 6 7	1, 6 8 6	△ 8 1
職員人件費	5 2 4	5 1 2	△ 1 2
一般管理費	3 2 2	3 5 3	3 1
財務費用	-	0	0
雑損	-	5	5
減価償却費	7 7	8 8	1 1
収入の部	3, 4 9 3	3, 5 9 4	1 0 1
経常収益	3, 4 9 3	3, 5 9 4	1 0 1
運営費交付金収益	2, 0 5 5	2, 1 4 0	8 5
授業料収益	9 4 5	9 2 9	△ 1 6
入学金収益	1 0 7	1 0 8	1
検定料収益	5 1	4 9	△ 2
受託研究等収益	1 0 3	8 2	△ 2 1
補助金収益	1 2 3	1 6 5	4 2
財務収益	-	0	0
雑益	3 3	3 8	5
資産見返負債戻入	7 6	8 3	7
資産見返運営費交付金等戻入	4 7	4 7	0
資産見返寄附金戻入	1 2	1 4	2
資産見返補助金戻入	1	1	0
資産見返物品受贈額戻入	1 6	2 1	5
経常利益	△ 1 2 9	7 5	2 0 4
臨時損失	-	0	0
臨時利益	-	0	0
純利益	△ 1 2 9	7 5	2 0 4
目的積立金取崩額	1 2 9	-	△ 1 2 9
総利益	-	7 5	7 5

注)費用の部「寄附金経費」は、教育研究経費の決算額に含めて計上しています。

3 資金計画

(単位:百万円)

区 分	予算額	決算額	差 額 (決算-予算)
資金支出	4,481	4,464	△17
業務活動による支出	3,358	3,337	△21
投資活動による支出	198	87	△111
財務活動による支出	1	1	0
翌年度への繰越金	924	1,039	115
資金収入	4,481	4,464	△17
業務活動による収入	3,371	3,395	24
運営費交付金による収入	2,097	2,158	61
授業料及び入学検定料による収入	1,017	993	△24
受託研究等収入	103	70	△33
補助金収入	121	146	25
その他の収入	33	28	△5
投資活動による収入	58	13	△45
財務活動による収入	—	—	—
前年度からの繰越金	1,052	1,056	4

第5 短期借入金の限度額

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
短期借入金の限度額 限度額 3億円	短期借入金の限度額 限度額 3億円	該当なし	—	—	

第6 剰余金の使途

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。	決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。	令和3年度決算剰余金39,095千円を教育研究の向上及び組織運営の改善積立基金に積み立てた。	—	—	

第7 重要な財産の譲渡等に関する計画

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見
なし	なし	なし	—	—	

第8 その他規則で定める事項

中期計画	年度計画	実績状況	法人自己評価	委員会評価	委員会参考意見																																												
<p>1 施設及び設備に関する計画 個別施設計画に基づき、第3期中期計画期間中に行う。</p> <p>2 中期目標の期間を超える債務負担 ○学内ネットワークシステム更新事業 ・事業総額：382 百万円 ・事業期間：令和2年度～令和8年度（7年間） (単位：百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> <th>中期目標期間小計</th> <th>次期以降事業費</th> <th>総事業費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>債務負担額</td> <td>0</td> <td>38</td> <td>76</td> <td>76</td> <td>76</td> <td>267</td> <td>115</td> <td>382</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 金額の端数処理は、年度毎に四捨五入を行っているため、中期目標期間小計と一致しない。</p> <p>3 地方独立行政法人法第40条第4項の規定により業務の財源に充てることができる積立金の使途 教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。</p> <p>4 その他法人の業務運営に関し必要な事項 なし</p>	年度	R2	R3	R4	R5	R6	中期目標期間小計	次期以降事業費	総事業費	債務負担額	0	38	76	76	76	267	115	382	<p>1 施設及び設備に関する計画 個別施設計画に基づき、第3期中期計画期間中に行う。</p> <p>2 中期目標の期間を超える債務負担 ○学内ネットワークシステム更新事業 ・事業総額：382 百万円 ・事業期間：令和2年度～令和8年度（7年間） (単位：百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> <th>中期目標期間小計</th> <th>次期以降事業費</th> <th>総事業費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>債務負担額</td> <td>0</td> <td>38</td> <td>76</td> <td>76</td> <td>76</td> <td>267</td> <td>115</td> <td>382</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 金額の端数処理は、年度毎に四捨五入を行っているため、中期目標期間小計と一致しない。</p> <p>3 地方独立行政法人法第40条第4項の規定により業務の財源に充てることができる積立金の使途 教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。</p> <p>4 その他法人の業務運営に関し必要な事項 なし</p>	年度	R2	R3	R4	R5	R6	中期目標期間小計	次期以降事業費	総事業費	債務負担額	0	38	76	76	76	267	115	382	<p>1 大規模修繕を3件実施した。 ・高圧受変電設備 ・給排水・排水処理施設 ・外壁タイル等点検補修</p> <p>2 学内ネットワークシステム更新事業 (単位：百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>支出額</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>44</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 該当なし</p> <p>4 該当なし</p>	年度	R2	R3	R4	支出額	0	1	44	—	—	
年度	R2	R3	R4	R5	R6	中期目標期間小計	次期以降事業費	総事業費																																									
債務負担額	0	38	76	76	76	267	115	382																																									
年度	R2	R3	R4	R5	R6	中期目標期間小計	次期以降事業費	総事業費																																									
債務負担額	0	38	76	76	76	267	115	382																																									
年度	R2	R3	R4																																														
支出額	0	1	44																																														

(注 記)

法人自己評価欄の評点が 2 点又は4 点 の場合、「実績状況欄」にその評価の考え方を「評価時の観点」として記載している。

【評価時の観点】

例 〇〇での〇〇の〇〇等により、〇〇〇〇〇の合格率100%が達成できた。

4 令和4年度の事業年度評価に係る項目別評価結果表

項 目	中期計画 項目数 (A)	公立大学法人岡山県立大学自己評価								岡山県地方独立行政法人評価委員会評価								
		最小項目別評価の評点内訳					項目数計 (B~E計) (F)	(B~E) 総得点 (G)	評 点 平均値 (G)/(F) (H)	大項目 別評点 (I)	最小項目別評価の評点内訳					(J~M) 総得点 (O)	評 点 平均値 (O)/(N) (P)	大項目 別評価 (Q)
		4点 (B)	3点 (C)	2点 (D)	1点 (E)	4点 (J)					3点 (K)	2点 (L)	1点 (M)					
第2 大学の教育研究等の質の向上	33	6	22	5		33	100	3.0	④	6	22	5		33	100	3.0	④	
1 教育	11	3	6	2		11	34	3.1		3	6	2		11	34	3.1		
(1)教育内容の充実	8	2	4	2		8	24	3.0		2	4	2		8	24	3.0		
(2)教育方法の改善	3	1	2			3	10	3.3		1	2			3	10	3.3		
2 学生の確保	3		3			3	9	3.0			3			3	9	3.0		
3 学生の支援	9	2	6	1		9	28	3.1		2	6	1		9	28	3.1		
(1)学習支援の充実	4	1	3			4	13	3.3		1	3			4	13	3.3		
(2)生活支援の充実	2	1	1			2	7	3.5		1	1			2	7	3.5		
(3)就職支援の充実	3		2	1		3	8	2.7			2	1		3	8	2.7		
4 研究	5		4	1		5	14	2.8			4	1		5	14	2.8		
(1)研究の充実	2		2			2	6	3.0			2			2	6	3.0		
(2)多様な研究活動の展開	2		1	1		2	5	2.5			1	1		2	5	2.5		
(3)研究成果の還元	1		1			1	3	3.0			1			1	3	3.0		
5 地域貢献	3		2	1		3	8	2.7			2	1		3	8	2.7		
(1)地域連携教育の充実	2		1	1		2	5	2.5			1	1		2	5	2.5		
(2)地域貢献活動の充実	1		1			1	3	3.0			1			1	3	3.0		
6 グローバル化	2	1	1			2	7	3.5		1	1			2	7	3.5		

項 目	中期計画 項目数 (A)	公立大学法人岡山県立大学自己評価								岡山県地方独立行政法人評価委員会評価								
		最小項目別評価の評点内訳					項目数計 (B~E計) (F)	(B~E) 総得点 (G)	評 点 平均値 (G)/(F) (H)	大項目 別評点 (I)	最小項目別評価の評点内訳					(J~M) 総得点 (O)	評 点 平均値 (O)/(N) (P)	大項目 別評価 (Q)
		4 点 (B)	3 点 (C)	2 点 (D)	1 点 (E)	4 点 (J)					3 点 (K)	2 点 (L)	1 点 (M)					
第3 業務運営の改善及び効率化等	19	1	15	3		19	55	2.9	④	1	15	3		19	55	2.9	④	
1 業務運営の改善及び効率化	8		7	1		8	23	2.9			7	1		8	23	2.9		
(1)機動的かつ効率的な運営体制の構築	5		4	1		5	14	2.8			4	1		5	14	2.8		
(2)地域に開かれた大学づくりの推進	3		3			3	9	3.0			3			3	9	3.0		
2 財務内容の改善	3		1	2		3	7	2.3			1	2		3	7	2.3		
(1)自己収入の増加	2			2		2	4	2.0				2		2	4	2.0		
(2)運営経費の見直し	1		1			1	3	3.0			1			1	3	3.0		
3 自己点検及び評価	5	1	4			5	16	3.2		1	4			5	16	3.2		
(1)評価の充実	3	1	2			3	10	3.3		1	2			3	10	3.3		
(2)情報公開の推進	2		2			2	6	3.0			2			2	6	3.0		
4 その他業務運営に関する目標	3		3			3	9	3.0			3			3	9	3.0		
(1)施設及び設備の適切な維持管理	1		1			1	3	3.0			1			1	3	3.0		
(2)安全・安心な教育研究環境の確保	2		2			2	6	3.0			2			2	6	3.0		
合 計	52	7	37	8		52	155	3.0		7	37	8		52	155	3.0		

事業年度評価における評価基準及びその判断目安等

最小項目別評価	評点	評価基準
	4	年度計画を十分に達成
	3	年度計画を概ね達成
	2	年度計画をやや未達成
	1	年度計画を未達成

大項目別評価	評点	評価基準	判断の目安※
	⑤	中期計画の進捗は優れて順調	3.1以上
	④	中期計画の進捗は順調	2.7以上3.0以下
	③	中期計画の進捗は概ね順調	2.3以上2.6以下
	②	中期計画の進捗はやや遅れている	1.9以上2.2以下
	①	中期計画の進捗は遅れている	1.8以下

※原則、当該大項目に係る最小項目別評価の評点の平均値（小数点以下第2位四捨五入）で区分する。